

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
① 学生の確保の見通し	・・・・・・・・ 1 頁
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	・・・・・・・・ 11 頁
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	・・・・・・・・ 13 頁
② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	・・・・・・・・ 14 頁
【資 料】	・・・・・・・・ 17 頁

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

大学全体の学生募集状況

直近 10 年間の学生募集状況を振り返ると、平成 23 年度の 3,176 名の志願者数をピークに年々志願者が減少し、平成 27 年度には 2,045 名にまで低下した。そうした状況を改善するため、大学教育の質的転換が問われるなか、学位課程ごとの教育の充実・強化を図るため、新たに社会学部・教育学部の設置を計画。平成 28 年度からそのコンセプトを広く周知し、平成 30 年 4 月に開設した。またそれと機を同じくして、アクティブ・ラーニングなどに対応する高機能教室や学生が自由に利用できるラーニングスペース等を確保した新教室棟「慶聞館」を竣工し学修環境の充実を図った。その結果、志願者は、平成 28 年度 3,002 名、平成 29 年度 3,236 名、新学部開設年度である平成 30 年度が 6,503 名（平成 29 年度比 2.01 倍）、令和元年度 7,217 名（平成 29 年度比 2.23 倍）、令和 2 年度 7,106 名（平成 29 年度比 2.2 倍）と平成 28 年度以降志願者数は増加傾向にあり、特に新学部開設以降は 3 年連続して平成 29 年度志願者数の 2 倍を超える志願者を集めることができた。

このように、大谷大学の学生募集状況は、入学定員の厳格化の動きを追い風としつつ、社会的な要請に積極的に応える継続的な改革への取り組みが認知・評価され、一時的ではない継続的な志願者数の確保ができていると言える。（資料 1）。

文学部国際文化学科の学生募集状況

令和 3 年 4 月に設置を構想している国際学部国際文化学科は、文学部国際文化学科の教育資産を継承し発展的に改組するとともに、平成 30 年 4 月に行った入学定員 10 名の削減をもとに戻し、入学定員・収容定員を増加して設置することを計画している。

文学部国際文化学科の直近 10 年間の学生募集状況は、平成 22 年度の 332 名の志願者数をピークに、少しの増減はあるものの一貫して志願者数は減少し、平成 27 年度には 210 名にまで低下した。特に、平成 26・27・28 年度には入学定員が未充足となり、平成 30 年度の新学部開設の際には、入学定員を 10 名削減し適正化を図った。また平成 30 年度には、新学部開設とともに、文学部国際文化学科においてもフィールドワークなどの実践的科目による英語力強化を特徴とする英語コミュニケーション履修コースをスタートさせた。これらの取り組みを進めた結果、大学全体の動向と同様に、平成 28 年度 312 名、平成 29 年度 378 名、新学部開設・新コースをスタートした平成 30 年度には 877 名（平成 29 年度比 2.32 倍）、令和元年度 814 名（平成 29 年度比 2.15 倍）、令和 2 年度 743 名（平成 29 年度

比 1.97 倍) と平成 28 年度以降志願者数が増加傾向にあり、平成 29 年度志願者数の約 2 倍を超える志願者を集めることができた。

このように、入学定員 100 名として募集を行っていた直近のピークである平成 29 年度の志願者数が 3 年連続で倍増しており、文学部国際文化学科の学生募集状況についても、継続的な志願者数の確保ができていると言える。(資料 2 「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料 2 再掲)。

資料請求・オープンキャンパスの参加状況

志願者数が直近で最も低下した平成 27 年度以降の資料請求の状況を見ると、1.01 倍から 1.45 倍の勢いで毎年資料請求者が増加している。令和元年度の総資料請求者数は 76,136 名で、これは平成 27 年度の資料請求者数の 2.06 倍に相当する。

資料請求者数の順調な伸びとともに、オープンキャンパスの参加者数も毎年増加している。令和元年度の参加者数は 4,238 名(保護者を除く)で、平成 27 年度と比較して約 1.78 倍となっている。令和元年度の各数値は 1 月末に集計した途中経過の参考値ではあるが、高校 1 年生の資料請求者を除き、高校 1 年から 3 年の各学年において 5 カ年連続して増加している。このことは、今後数年にわたって継続的に志願者を維持・増加させる基盤をもつ証左と考えている(資料 3)。

京都地域における国際系学部の志願動向

平成 28 年度から令和元年度までの過去 4 カ年の京阪神地区私立大学の国際系各学部・学科の志願動向を見てみると、一貫して増加傾向にある。平成 28 年度の志願者数が 33,230 名であるのに対し、令和元年度は 45,571 名と 1.37 倍増加しており、一定層の志願希望者が存在する学問領域、学部・学科系統であると言える(資料 4)。

令和 13 年度の近畿地区 18 歳人口予測と学生確保の見通し

本学の地域別志願者構成は、全国から志願者を集めてはいるものの、近畿地区だけで全志願者数の約 80%を占めている。その近畿地区志願者総数においても、滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県の志願者で約 95%を占めている(資料 5-1)。入学者の構成をみても、近畿地区で約 75%、近畿地区入学者総数においても、滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県の入学者が約 95%となっている(資料 5-2)。本学における志願者・入学者は、滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県に大きく依存する構造となっている。

上記構造を前提に、近畿地区における今後の 18 歳人口の動向をみると、令和 6 年度に直近の底が訪れ、その後、一旦微増するもその後減少し、令和 13 年度には 2019 年度の 85.3%

となることが予想されている（資料 6）。また滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県に絞って 18 歳人口の動向をみても、令和元年度の 174,682 名に対し、令和 6 年度 155,460 名（対令和元年度比 89.0%）、令和 13 年度 150,198 名（対令和元年度比 86.0%）と減少していく（資料 7）。

これらの状況をふまえ、本学の志願者・入学者において主要な位置づけをもつ滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県について、シミュレーションをおこなった。令和元年度と令和 2 年度の 2 府 2 県ごとの 18 歳人口に占める本学志願者の割合の平均をだし、令和 3 年度以降の 18 歳人口予測数に乗じて、今後の志願者数を予測した。その結果は、一旦の底をむかえる令和 6 年度で 4,914 名、令和 2 年度 5,294 名の 92.8%、527 名の減少と計算された。令和 13 年度には 4,687 名、令和 2 年度の 88.5%、754 名の減となる。2 カ年の実績をもとに単純計算した結果であり、また志願者数や入学者数は、社会・経済の動向や多岐にわたる要因により左右されるものではあるが、継続的な教学改革や募集活動の取り組みを進めていく、特に大阪は他府県に比べ構成比率が低く改善強化できる余地があり、これらの努力を積んでいくことにより、4,700 名から 4,600 名の志願者を維持できると考える（資料 8）。

アンケートによるニーズアセスメント調査

上記統計データによる分析とともに、令和 3 年 4 月に新設を構想する国際学部の学生確保の見通しを測定し、設定する定員の充足の根拠となる客観的データを得ることを目的に、高校生へのニーズアンケートを実施した。調査の実施にあたっては、結果の客観性を担保するために、大学外の第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に委託し実施した（資料 9）。

本調査は、令和元年 10 月から令和 2 年 1 月にかけて実施し、令和 2 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、令和元年度の高校 2 年生をアンケート対象とした。調査方法としては、アンケート実施の了承が得られた高等学校にアンケート用紙を送付し、各校の教職員から高校 2 年生（令和 3 年 3 月卒業予定者）にアンケート用紙（設問とともに、国際学部が養成する人物・学びの特色・卒業後の進路・関係学部を持った近隣大学との学費比較等を記載）を配布のうえで、10 分間程度の回答時間を設け、終了後、その場で回収し返送する形を取った。

実施にあたっては、本学への志願実績が継続してある全国の公立・私立の高等学校にアンケート実施の可否を尋ね、実施可能と返答があった 407 校で実施し、6,921 名からの協力を得ることができた。調査実施高等学校は、京都府（93 校・22.9%）、大阪府（183 校・45.0%）、滋賀県（54 校・13.3%）の 2 府 1 県で 81.2%を占め、調査実施人数では 75.5%に達した。この数値は、先述の通り令和 2 年度の京都府・大阪府・滋賀県の志願者合計との全国比率（資料 5-1：志願者 5,003 名・90.2%）であることを踏まえると、ほぼ実態に即した実施が

できており、アンケート調査の母集団として妥当なものとする。

有効回答 6,921 名のうち、高等学校卒業後に大学への進学を希望した者は 5,688 名 (82.2%)。新設する国際学部を受験したいと回答した者が 300 名 (5.3%) となった。その 300 名について入学意欲について質問したところ、予定する入学定員 100 名を超える 127 名が「合格した場合、入学したい」と回答、166 名が「合格した場合、併願先の結果によっては入学したい」と回答した。また「現時点では (国際学部を) 受験しない」と回答した 6,398 名にその理由を尋ねたところ、「興味・関心はあるが、詳細を知ったうえで検討したい」とする回答者が 508 名存在し、今後の広報活動を通じて受験者になりうる者も一定数存在することが確認できた。

これらの結果により、本学が令和 3 年 4 月に設置構想中である「国際学部」の学生確保の見通しは、予定する入学定員 (100 名) を上回る回答が得られたことにより、入学者の確保は十分に可能であると判断できる。

定員超過率が 0.7 倍未満の学科の定員未充足の原因と定員設定の合理性について

【九州大谷短期大学 福祉学科】

福祉学科の定員未充足の原因と定員設定の合理性

福祉学科は、平成 11 年度に開設し、九州大谷短期大学の中核をなす学科として介護福祉士の養成に励んできた。しかしながら、18 歳人口の減少に伴う短期大学進学者の減少、特に介護福祉系の職場からの離職傾向等様々な要素が重なり、慢性的な学生募集状況の悪化を招いている。過去 5 年間の入学定員超過率についても未充足が続き、現行の入学定員 35 名の過去 5 年間の平均定員超過率は、0.44 (資料ア)、オープンキャンパス参加者も減少傾向となっている (資料イ)。

これに対し、令和元年度から入学定員を 35 名から 20 名に減員し入学定員の適正化を図っている。また、令和 2 年度の入学者見込みでは、若干ではあるが入学者の増加がみられる予定であり、今後の動向を注視したい。

学生確保についての具体的な取組状況

我が国は、高齢化に伴う介護事業の必要性が課題とされている。福岡県でもその重要性は指摘されており (資料ウ)、令和 7 年度には福岡県の人口減少と相まって、65 才以上の高齢化率は 30%を超えるとされている。本学の位置する筑後市近隣の高齢化率はさらに深刻な状況が予測され (資料エ)、それを裏付けるかのように、近隣の福祉関連施設からの求人数は増加傾向にあると言える (資料オ)。

福祉学科の就職希望者のほとんどは、専門職として福祉・介護現場に就職するが、過去3年間就職率100%を維持しており、需要の高さを表している（資料カ）。

これらの社会的ニーズを背景とし、福祉関連施設との連携を進めつつ、受験生・高等学校への進路ガイダンスを強化していくことにより入学者を確保していく。また新奨学金制度の導入などの学生確保のための強化策についても取り組んでいく予定であり、詳細は後述する（12-13頁「②学生確保に向けた具体的な取組状況」）。

【資料ア】福祉学科の志願者・入学者等及び定員超過率の推移

福祉学科

		平成28年	平成29年	平成30年	平成31年 令和元年	令和2年 見込み
入学定員	(人)	35	35	35	20	20
志願者数	(人)	20	15	13	8	11
受験者数	(人)	20	15	13	8	11
合格者数	(人)	20	15	13	8	11
入学者数	(人)	18	15	12	8	11
定員超過率	(倍)	0.51	0.42	0.34	0.4	0.55

【資料イ】福祉学科のオープンキャンパス・入試相談会参加者数の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年)
	参加者(人)	参加者(人)	参加者(人)	参加者(人)	参加者(人)
福祉学科	34	38	19	12	21

【資料ウ】福岡県人口ビジョン地方創生総合戦略（将来人口）（平成27年12月福岡県）

（４）このままの状況で推移した場合の将来人口

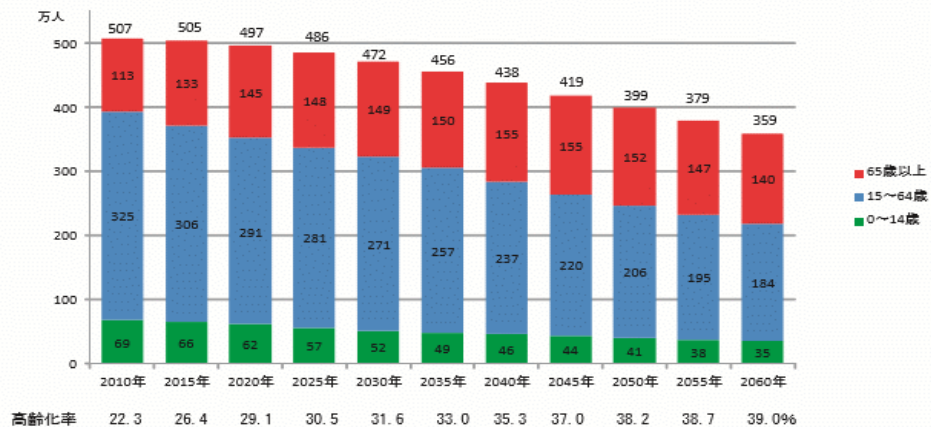
- このままの状況が続いた場合の本県の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠すると、2060年には359万人になると推計されている。
- 人口減少は後年になるほど加速し、現在より3割も少ない人口になると見込まれている。
- 人口は総数の変化に留まらず、高齢化率も4割に近づき、その構造が大きく変容することとなる。

① 社人研推計準拠（課題となる人口総数の減少と構造変化）

本県の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠すると、このままの状況が続いた場合、本県の人口は減少し始め、2060年には359万人になるとされている。年齢区分別では、年少人口、生産年齢人口の減少が大きく、老年人口は2045年頃まで増加したのち減少に転じる。

人口減少は、後年になるほど加速し、現在より3割も少ない人口総数になると同時に、高齢化率も4割に近づくなど、その構造が大きく変容すると見込まれる。

図表1－（４）－1 本県の将来人口推計（社人研推計準拠）



資料：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「社人研推計準拠」

【資料エ】福岡県人口ビジョン地方創生総合戦略

(広域地域振興圏の現状の施策の方向性) (平成 27 年 12 月福岡県)

Ⅲ 広域地域振興圏の現状と施策の方向性

⑩八女・筑後圏域 (八女市、筑後市、広川町)

1 現状分析

(1) 人口構造

総人口、年齢 3 区分別人口と県内に占める割合

八女・筑後圏域	域内人口 (人) (A)	割合 (%)	(参考) 全県人口 (人) (B)	割合 (%)	対全県 シェア(%) (A)/(B)
域内人口(人)	134,337	100.0	5,092,513	100.0	2.6
年少人口	17,764	13.2	684,810	13.4	2.6
生産年齢人口	76,937	57.3	3,103,621	60.9	2.5
老年人口	38,846	28.9	1,268,659	24.9	3.1

「福岡県の人口と世帯」による2014年10月1日人口

※割合の合計が 100 にならないのは、年齢不詳分のため

総人口は約 13.4 万人で、県全体の 2.6%を占める。

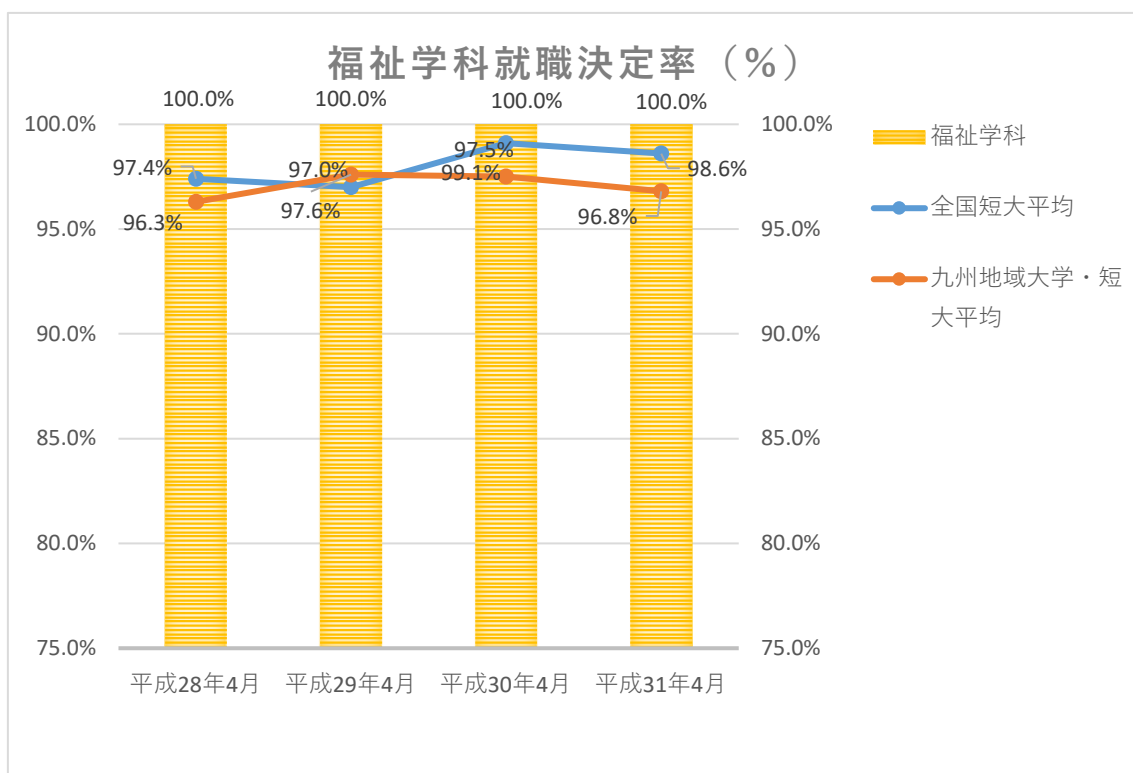
県平均に比べ、年少人口、生産年齢人口の割合がやや低く、高齢化率は約 29%と高くなっている。

【資料オ】九州大谷短期大学福祉学科求人受付状況

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年年度	平成 29 年度
	求人数	求人数	求人数	求人数
福祉	248	316	336	341

【資料力】九州大谷短期大学福祉学科就職決定率

	平成28年4月	平成29年4月	平成30年4月	平成31年4月
全国短大平均	97.4%	97.0%	99.1%	98.6%
九州地域大学・短大平均	96.3%	97.6%	97.5%	96.8%
福祉学科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



【九州大谷短期大学 表現学科】

表現学科の定員未充足の原因と定員設定の合理性

表現学科は、一時期の入学定員未充足の時期を経て、平成 28 年度以降 1.12 から 1.28 の充足状況で推移したことから、他学科の入学定員を適正規模に縮小する定員を振り替え、令和元年度から入学定員を 50 名から 65 名に増員した。その結果、令和元年度の定員充足状況は 0.63（資料キ）と低迷することとなった。これは、「俳優」「声優」「ミュージカル・ダンス」等の専門領域における志願者動向が他の専門分野に比べ流動的なことが要因としてあげられる。しかしながら、地方における文化発信の活性化、義務教育におけるダンス等の導入等と相まって演劇やダンス等の表現活動分野への関心は高い傾向にある。令和元年度については、一時的な超過率の減少が見られるものの令和 2 年度入学者については、11 名の入学者増が見込まれ回復傾向にある（資料キ）。

学生確保についての具体的な取組状況

表現学科では、社会的な文化情操教育の動向や高校生ニーズに応えるべく、積極的にカリキュラム変更を行っている。令和元年度より「俳優」「声優」「ミュージカル・ダンス」の従前の 3 コースに、新たに「シアターコミュニケーション」の新コースを加えた 4 コース制への移行もその一つである。

また、通常のオープンキャンパスだけではなく、学科独自の募集活動も頻繁に行っている。地元の FM 局と共催し、声優を目指す中高生を対象としたコンテスト「声優スタジアム」（本学の教員が審査協力、会場協力）の開催や、本学の劇場施設を会場とし、地元の高文連関係者等の協力を得て実施される高等学校対象の演劇祭「ハイスクールシアター」の開催等、高校生を対象にしつつ、地域の企業や高等学校との連携を図った募集活動を展開している。また新奨学金制度の導入などの学生確保のための強化策については、後述する（12-13 頁「②学生確保に向けた具体的な取組状況」）。

【資料キ】表現学科の志願者・入学者等及び定員超過率の推移

表現学科

		平成28年	平成29年	平成30年	平成31年 令和元年	令和2年 見込み
入学定員	(人)	50	50	50	65	65
志願者数	(人)	58	68	68	46	52
受験者数	(人)	58	68	68	46	52
合格者数	(人)	58	65	64	45	52
入学者数	(人)	56	63	64	41	52
定員超過率	(倍)	1.12	1.26	1.28	0.63	0.8

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【資料 1】大学全体の学生募集状況の推移

【資料 2】文学部国際文化学科の学生募集状況の推移

入試統計データをもとに、大学全体、文学部国際文化学科の平成 22 年度から令和 2 年度までの 11 年間の志願者、受験者、合格者、入学者（入学者については令和 2 年度の数値は未確定）について、大学でグラフ化し可視化したもの。平成 30 年度の新学部・新履修コースの設置以後、急激に志願者数を集めていることがわかる。

【資料 3】資料請求者・オープンキャンパス来場者数の推移

入試統計データをもとに、志願者数が直近で一番減少した年度である平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間について、大学のべ数で一覧表にしたもの。一部の例外を除き、資料請求者数・オープンキャンパス来場者数ともに増加傾向を維持している。

【資料 4】京阪神地区私立大学 国際系学部の志願者数推移

(株) リクルートマーケティングパートナーズより資料の提供を受け、大学で整理したもの。国際系学部の志望層は近年増加の傾向にあることがわかる。

【資料 5-1、5-2】高校所在地別志願・入学状況の推移

入試統計データをもとに、受験生が所属する高校の住所地別に大学が集計をしたもの。本学は全国から志願者を集めてはいるものの、過去 5 か年にわたり、近畿地区だけで全志願者数の約 80%を、その近畿地区を見ると滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県の志願者で約 95%を占める構造がわかる。通信制高等学校の場合、高等学校の本拠地がある住所地に集約されるため、受験生の実際の住所地と異なる場合がある。

【資料 6】リクルート進学総研「18 歳人口予測」

令和 2 年の 1 月にリクルート進学総研が発表した、18 歳人口予測のマーケットレポート（リクルート進学総研ホームページ上で公開されているレポート Vol.78）。18 歳人口の概算については、文部科学省平成 28 年度から平成 30 年度の学校基本調査（確定値）及び令和元年度学校基本調査（速報値）をもとに算出されたもの。

【資料 7】 滋賀・京都・大阪・兵庫 2 府 2 県の 18 歳人口予測

資料 6、リクルート進学総研 18 歳人口予測のマーケットレポートから、当該府県のデータを抽出し、大学において作成したもの。

【資料 8】 令和元年度・令和 2 年度の志願者実績をもとにした滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者数シミュレーション

資料 6、リクルート進学総研 18 歳人口予測のマーケットレポートから、当該府県のデータを抽出。それに令和元年度・令和 2 年度の滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者実績を平均した指数を、各年度の 18 歳人口にかけて志願者予測数を算出したもの。

【資料 9】 高校生アンケート調査報告書

国際学部国際文化学科の学生確保の見通しを測定し、設定する定員の充足の根拠となる客観的データを得ることを目的に、受験年度となる高校 2 年生を対象にニーズアンケートを実施結果報告書。調査の実施にあたっては、結果の客観性を担保するために、大学外の第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に委託した。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金の設定額については、平成 23 年度に策定したグランドデザイン（平成 24 年度－令和 3 年度）の「管理運営方針」で示した「学長のリーダーシップのもと、教職協働体制を維持強化し、迅速な意思決定を行える体制を構築する。また、大学経営・運営における戦略策定やその遂行に力を発揮することができる教職員を育成するとともに、増収による財政基盤の安定を図る」を踏まえて、総合的な判断から設定している。

平成 14 年度以降、本学の学生納付金は据え置きのまま値上げをひかえてきた。平成 30 年度の新学部設置にあたって、多様な教育を実現するために必要なスタッフの配置（人件費率）、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備計画にともなう施設費の改定を考慮し、近畿圏の競合大学の実情との比較を行い、学部ごとに帰属収支のバランスがとれるよう授業料の再設定をおこなった。このことを踏まえ、令和 3 年 4 月に開設を構想している国際学部においても、文学部国際文化学科を発展的に改組することを基本とするため、現行の学生納付金額を維持する予定である。

京阪神地区の国際系学部・学科を持つ私立大学の学生納付金の状況、文部科学省が公表している平成 30 年度入学者にかかる学生納付金等調査結果と比較してみても、大きくかけ離れている金額ではない。京阪神地区の国際系学部・学科を持つ私立大学にあっては、中位の下に位置付けられ、学生納付金の設定は妥当であると考えている（資料 10）。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組は、以下の事業を軸に進めている。

1. 大学説明会の開催、進学相談会への参加
2. 高校訪問、高校内模擬授業・ガイダンスの実施
3. オープンキャンパスの実施
4. ダイレクトメールの発送
5. 大学ホームページや公式 SNS を活用した情報発信
6. 高大連携・接続授業の実施
7. 大学進学に関わる諸雑誌への情報掲載

本学では恒常的に、所属教員が高等学校を訪問し進路指導部との関係を強化するとともに、高校での模擬授業やガイダンスを実施し、学びの具体的な内容や卒業した場合の進路について、直接高校生に説明する機会を設けている。

オープンキャンパス参加者の出願率は、他の取り組みに比して高く、大学を訪問してもらい、受験生と教員・在学生在が直接対話することを重視している。年間 6 回のオープンキャンパスを開催し、参加者の学年や時期に応じ、必要となる情報を提供し本学への興味関心を向上させている。

高大連携・接続授業の実施については、学生募集を直接の目的とするものではないが、本学の学部・学科の学びや教員を直接知る重要な機会となっている。高校生だけではなく、高等学校との双方向の情報交換の機会となり、信頼関係構築に役立っている。

既述した通り、本学の志願者・入学者の構造は近畿の 2 府 2 県に集中しているため、地域ごとの募集活動を綿密に計画立てるとともに、近畿地区以外への募集活動についても、地域を選択し注力を行っている。

九州大谷短期大学における学生確保の取り組み

福祉学科では、職業訓練生制度による訓練生の受け入れや、入学金免除となる社会人入試制度の活用等、社会人の積極的な受け入れを進めている。一方で、高校生を対象に若年層の介護イメージの向上に努めるための介護コンテスト「C-1 グランプリ」を開催するなど、近隣の高等学校とも連携した広報活動を展開している。

また、長期的介護人材不足に備え、九州大谷短期大学主催で近隣の介護関係事業所や社会福祉協議会等へ呼びかけ「筑後地域介護人材養成研究会」を平成 25 年度に設立し、筑後地方の介護人材養成について養成段階からの協力体制を築くべく取り組んでいる。今後、事業所や各市町村単位の奨学金制度の創設、「外国人介護福祉士育成プロジェクト」の参画等、具体的な方途を検討し、アクションプランとして提案、実施していく予定である。

さらに、令和 3 年度大学入学者選抜実施要項の見直しへ向け、アドミッションポリシー

に基づく「学力の 3 要素」を多面的・総合的に評価する入試制度改革をすすめている。特に、入学前教育の推進と連動した奨学金制度「スカラシップチャレンジ」並びに「リレーションシップ奨学金」を新規に導入し、学生の経済的な負担軽減を図るとともに学生の就学意欲向上も兼ねた募集力強化を図っていく予定である。これによって、入学者の 6 名に 1 名が奨学金対象者となる見込みとなり、志願者増へ繋がる具体的な取り組み策として展開していく（資料 11）。

【スカラシップチャレンジ】

- ①自己推薦型選抜における成績上位者の中から、入学金（200,000 円）免除となる学生（最大 20 名）を選抜する。
- ②自己推薦型選抜、学校推薦型選抜での合格者及び一般選抜 1 期受験者の中から、授業料免除となる学生（50%免除最大 10 名・30%免除最大 20 名）を選抜する。

【リレーションシップ奨学金】

入学者選抜試験の合格者の内、在学学生及び同窓生の親族に対し入学金（200,000 円）を免除する。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

大谷大学は、学則に明示するとおり、建学の理念を実現するために、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する人物を育成することを目的としている。

この目的を実現するために新たに設置を構想する国際学部国際文化学科では、人物養成に関する目的その他の教育研究上の目的をそれぞれ次のように定めている。

国際学部

グローバル社会において、建学の精神に基づいて自己のアイデンティティを確立し、多様な他者の存在に気づき、寄りそうことのできる人物の養成をめざす。

国際文化学科

国際文化学科は、欧米とアジア地域を研究対象とし、その文化事象を考究することで自己と他者理解に努め、さまざまな背景をもつ人びとに寄りそい、仏教的な「相互敬愛」を実現する人物の養成をめざす。

国際文化学科における学びは、言語能力を伸ばすことを通じて、価値観の異なる相手の考えを理解し、自分の考えを相手に正確に伝える能力を磨くことである。そこには、口頭での対話や議論はもちろんのこと、諸言語で書かれた資料を比較検討し、考察を進め、論文にまとめる能力も含まれる。それゆえ、本学科では、グローバル化された現代社会に生きる我々の問題意識を基盤におきながら、情報や資料を選別し、複眼的な視座で文化事象を観察し、明らかとなった事柄を順序だててまとめ、文章として表現し、レポートや論文として発信する訓練を重ねる。まとめられた成果は、国際文化演習（ゼミ）において発表され、他者との議論を経ることで、さらなる視野の広がりや視点の多面性を獲得していく。その繰り返しの過程を経ることにより、約2万字におよぶ卒業研究を作成し、その完成を以て学士課程〔学士（文学）〕の到達としている。

国際文化学科では、地域文化研究・比較文化研究の学びのプロセスを通して、幅広い視野で物事を捉え、論理的に思考し、その成果を正確に伝える力を身につけることを重視している。文化的背景の異なる他者との共存が前提となるグローバル化された現代社会において、様々な課題に対応していくためには、固定観念を排して相対的な観点に立ち、情報を収集・整理して課題を抽出し、それを分析・解決する切り口を発見し、明らかとなった事象を、相手に理解可能な言語で取りまとめ発信する力が重要となる。本学科では、専門分野の知識・技能はもちろんのこと、これらの汎用的能力をも身につけ、文化的多様性を許容する共生社会の実現に寄りそい共同して貢献していく人物を育成することを目指している。

② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

卒業生の進路状況

令和元年年5月1日現在の¹大谷大学全在籍学生の出身地構成は、京都府(1,124名、35.0%)滋賀県(706名、22.0%)、大阪府(441名、13.7%)の順に多く、地元出身、自宅からの通学生が全体の約70.6%を占めている。就職エリアについては、昨今の地元志向(自宅からの通勤可能範囲就活)もあり、令和元年3月卒業の学生は、京都府(43.3%)、大阪府(22.1%)滋賀県(9.5%)と全体の約75%を占めている。また、業種別進路決定状況を見ると、人とかかわる仕事を希望する学生が多く、文学部全体でサービス業(20.8%)、小売業(20.0%)、教育・学習(14.4%)、の順に多く、以下、卸売業(9.9%)などとなっている。学科別で見ると、国際文化学科は、小売業(21%)、サービス業(20%)、卸売業(15%)の順となっている。(資料12)。

一方、求人数は、近年の企業・団体側の採用意欲は高く年々増加の傾向にある。平成30年度は13,519件の求人が全国から寄せられている(資料13)。これは、平成30年度の第4学年在籍学生数708名の約19倍の求人数を意味している。なお、企業・団体からの求人は、学部や学科を指定するものではなく、大谷大学の学生として寄せられている。

文学部国際文化学科の卒業生の進路には、留学やワーキングホリデー、大学院進学も数えられるが、多くは企業に就職している。中には留学経験を生かして商社やホテルへ就職する者もいるが、大多数の学生は地元企業の総合職、営業職、販売職として活躍している。

文学部国際文化学科は国際学部国際文化学科に発展的に展開されることとなる。新たなカリキュラムの中では、世界が抱える複雑化、深刻化した課題に対し語学や歴史、文化研究を切り口に異文化理解(他者理解)を深めていくこととなるが、こうした学びは今後の労働環境を考えると不可欠である。というのも、日本の労働環境は、企業の海外展開や外国人観光客の受け入れ、外国人労働者や外国人技能実習生の受け入れなどグローバル化がこれまで以上の速さで進むことが予想されるからである。

語学を修得した学生には、①海外展開をしている企業の現場で、②国際観光都市である京都で観光やホテル、小売りなどサービス業で、異文化理解を深めた学生には、各職場で外国人労働者や外国人技能実習生のよき理解者として、それぞれの立場での活躍が期待される。また、国際学部国際文化学科が目指す語学学習、実践フィールドワーク、異文化理解を通した「コミュニケーション能力」「他者と協働して行動できる力」の修得は、対外国人のみならず、社会人として、会社など組織で働くうえで大切なことであると考えている。

人材需要アンケート調査結果

国際学部国際文化学科の設置について、養成しようとする人物像が社会的、地域的な人材需要に即しているかの見通しを得るために、「設置構想についての人材需要アンケート調査」を実施した。調査の実施にあたっては、客観的な情報を得るために、大学外の公正な第三者機関に委託することとし、株式会社高等教育総合研究所に調査を依頼した。

本調査は、令和元年12月から令和2年1月にかけて実施し、国際学部国際文化学科の卒業生の採用が期待できる企業・機関・団体として、これまでの大谷大学の採用実績のある1,096件を対象とした。

調査方法としては、調査対象先の採用担当者宛にアンケート調査用紙1部、依頼状、返信用封筒を送付し、協力可能な場合、回答済みのアンケート調査用紙を返送してもらう形をとった。有効回答をもらった企業・機関・団体の数は、221件で、回収率は20.2%となった。また調査の性質上、国際学部国際文化学科の概要（養成する人物、学びの特色、ディプロマ・ポリシーを分かりやすく表現した身につく力等）を添付し回答してもらう設問形式をとった。

回答してもらった企業・機関・団体の構成は、小売業42件（19.0%）、宿泊業・飲食サービス業36件（16.3%）の回答が目立ち、それぞれ全体の約2割を占める構成となっている。続いて医療・福祉31件（14.0%）、卸売業25件（11.3%）が多く全体の約1割を占めている。選択肢22業種のうち、「電気、ガス、熱供給、水道業」を除く21業種から幅広く回答を得ることができた。なお、回答があった企業・機関・団体の所在地（本社・主たる事業所等）は、京都府（34.4%）、大阪府（19.9%）、滋賀県（22.0%）、東京都（12.7%）と全体の76.9%を占めた。これは、本社機能が関東圏に集中していることや、本学卒業生の勤務地別比率が京都府・大阪府・滋賀県に集中していることとリンクしており、概ね実態に即したアンケートが実施できたと考えている（資料15）。

調査結果は、国際学部国際文化学科が養成する人物への社会的ニーズを問う質問に対し、「ニーズは極めて高い」が46件（20.8%）、「ニーズはある程度高い」が140件（63.3%）、あわせて186件（84.2%）から社会的ニーズの高さを示す回答を得た。また、国際学部国際文化学科が養成する人物について、121件（54.8%）が「採用したい」と回答し、本アンケート回答者の半数が採用意欲を示した。「採用したい」への回答を業種別に（問1の回答）で見たところ、回答のあった22業種のうち、14業種が「採用したい」と回答していることから、幅広い業種からの需要があると考えられる。

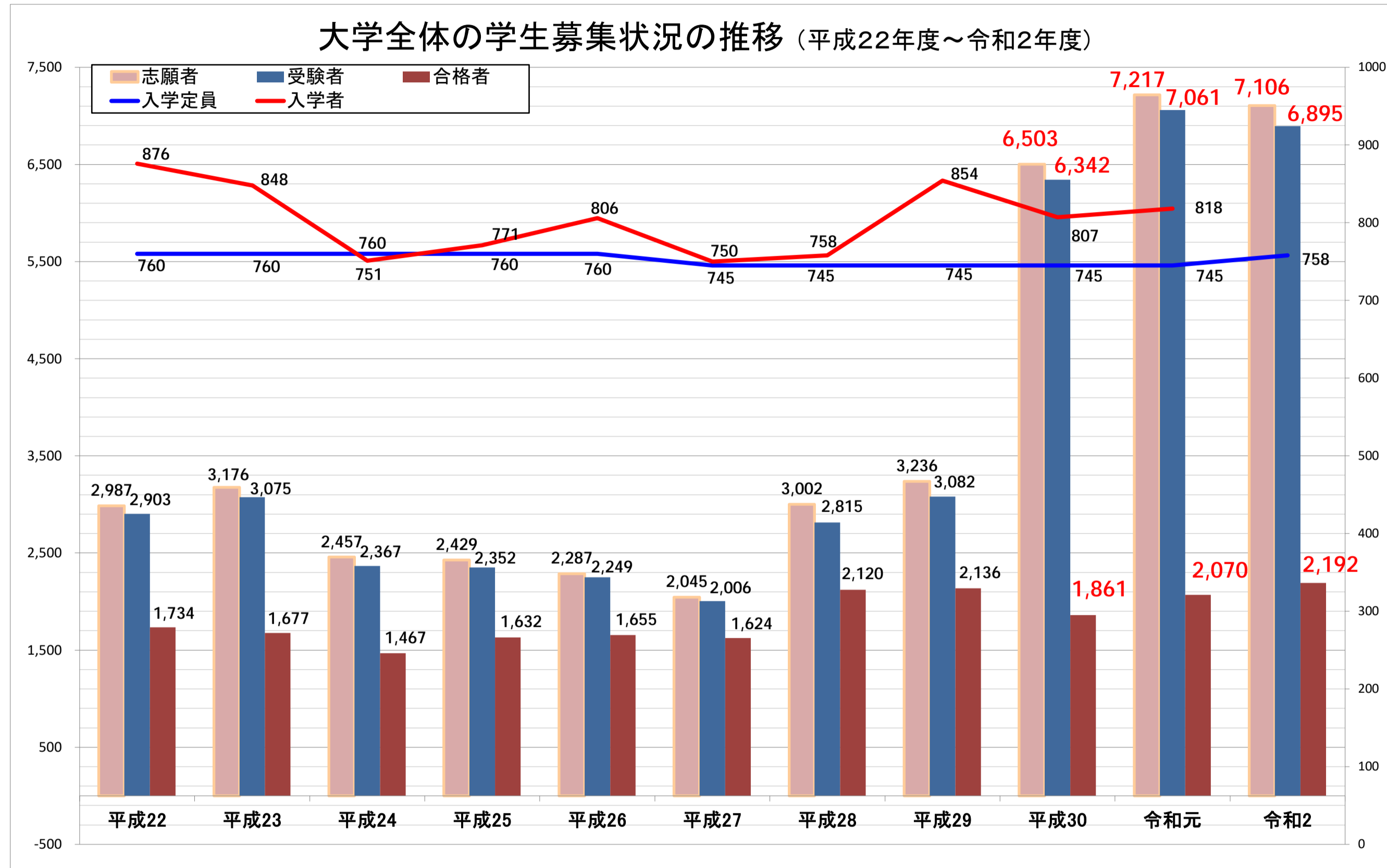
なお、「採用したい」と回答した121件には、採用可能と思われる現時点での人数の記入を求めており、104件が記入した。この記入人数の合計は380人となり、国際学部国際文化学科が予定する入学定員100人を上回る結果となった。

これらの結果から、今回のアンケートへの協力状況とともに、国際学部国際文化学科の卒業予定者に対する企業・機関・団体の人材需要は高く、卒業後の就職先については確保されていると考える。

添付資料 目次

【インデックス番号】

資料 1	大学全体の学生募集状況の推移(平成 22 年度～令和 2 年度)	【①】
資料 2	文学部国際文化学科の学生募集状況の推移(平成 22 年度～令和 2 年度)	【②】
資料 3	資料請求者・オープンキャンパス来場者の推移	【③】
資料 4	京阪神地区私立大学 国際系学部の志願者数推移	【④】
資料 5-1	高校所在地別志願状況の推移(2016～2020)	
資料 5-2	高校所在地別入学状況の推移(2015～2019)	【⑤】
資料 6	18 歳人口予測(近畿:2019-2031)	【⑥】
資料 7	近畿 2 府 4 県および滋賀・京都・大阪・兵庫 2 府 2 県の 18 歳人口予測	【⑦】
資料 8	2019・2020 年度の志願実績をもとにした 滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者数シミュレーション	【⑧】
資料 9	高校生アンケート調査報告書	【⑨】
資料 10	京阪神地区私立大学 国際系学部 入学初年度学費等 年間納付額(2020 年度)一覧	【⑩】
資料 11	九州大谷短期大学入学前教育の推進と連動した奨学金制度	【⑪】
資料 12	業種別就職状況 (H30)	【⑫】
資料 13	業種別求人件数の推移(H27-H30)	【⑬】
資料 14	学科別就職状況(H27-H30)	【⑭】
資料 15	人材需要アンケート調査結果	【⑮】

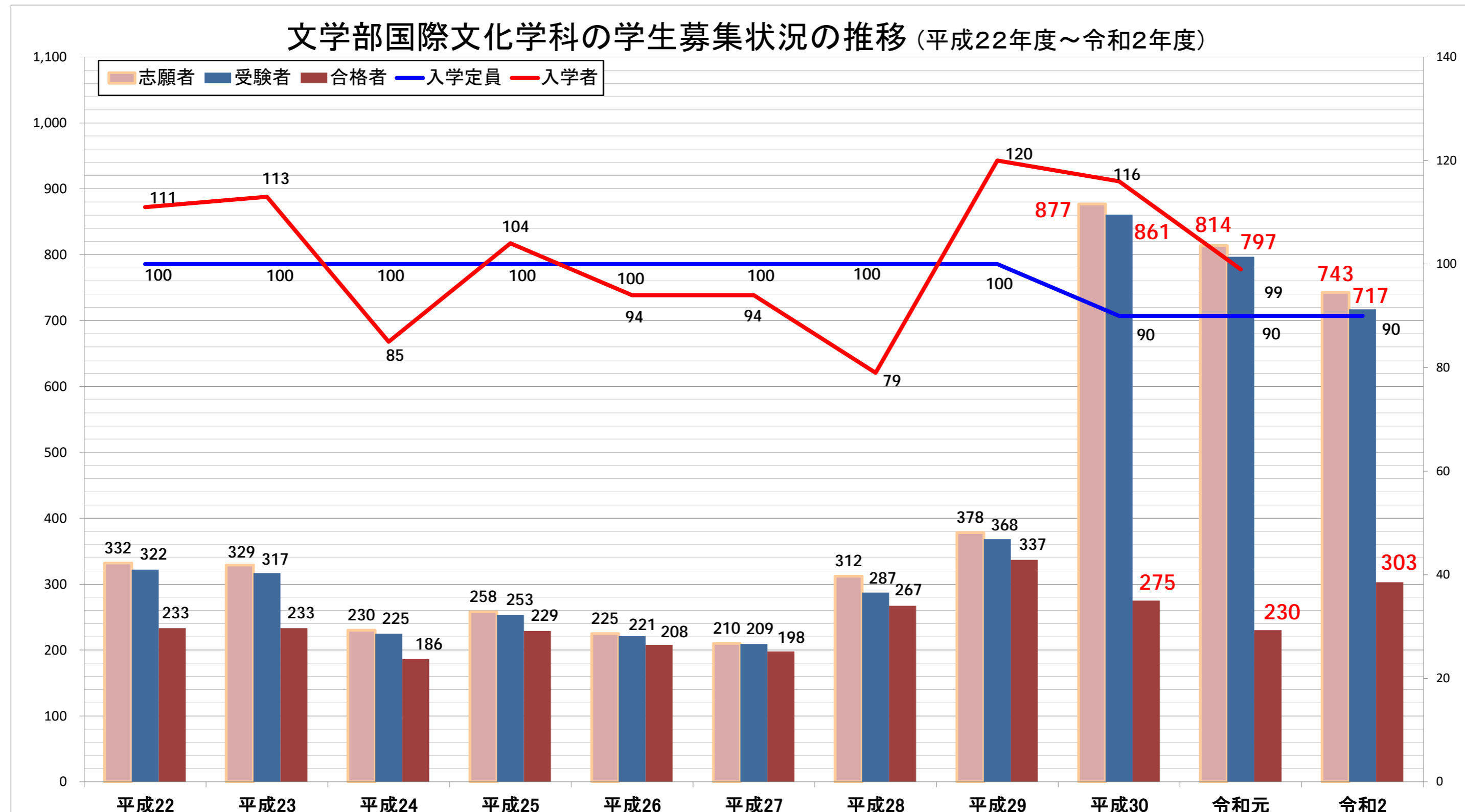


注：2020年度の入学者数は未確定のため表記せず

2020年3月25日現在

	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
入学定員	760	760	760	760	760	745	745	745	745	745	758
入学者	876	848	751	771	806	750	758	854	807	818	未確定
入学定員超過率	1.15	1.12	0.99	1.01	1.06	1.01	1.02	1.15	1.08	1.10	未確定

【資料2】



注：2020年度入学者数は未確定のため表記せず

2020年3月25日現在

	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
入学定員	100	100	100	100	100	100	100	100	90	90	90
入学者	111	113	85	104	94	94	79	120	116	99	未確定
入学定員超過率	1.11	1.13	0.85	1.04	0.94	0.94	0.79	1.20	1.29	1.10	未確定

【資料3】

資料請求者の推移

	1年生	2年生	3年生	その他	合計	前年比
平成27年度	3,966	10,737	19,545	2,635	36,883	-
平成28年度	5,154	13,905	22,603	3,295	44,957	1.22
平成29年度	8,082	21,861	31,358	3,806	65,107	1.45
平成30年度	8,566	23,313	38,857	4,441	75,177	1.15
平成31/令和1年度	7,265	24,447	39,956	4,468	76,136	1.01

2020年1月末時点の件数

オープンキャンパス来場者の推移

	1年生	2年生	3年生	その他	合計	前年比
平成27年度	98	492	1,597	194	2,381	-
平成28年度	133	594	1,606	152	2,485	1.04
平成29年度	132	648	2,086	129	2,995	1.21
平成30年度	190	760	2,521	166	3,637	1.21
平成31/令和1年度	297	973	2,775	193	4,238	1.17

2020年1月末時点の件数

【資料4】

京阪神地区私立大学 国際系学部の志願者数推移

大学	学部	学科	志願者数			
			2016年	2017年	2018年	2019年
大谷大学	文学部	国際文化学科	312	378	877	814
京都外国語大学	外国語学部	国際教養学科	355	480		
京都外国語大学	国際貢献学部	グローバルスタディーズ学科			474	834
京都外国語大学	国際貢献学部	グローバル観光学科			727	988
京都産業大学	外国語学部	国際関係学科	951	1,130	1,195	
京都産業大学	文化学部	国際文化学科	1,935	2,268	3,498	2,362
京都産業大学	文化学部	京都文化学科	1,670	1,464	1,983	1,938
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科				3,082
同志社大学	グローバル地域文化学部	グローバル地域文化学科	1,658	1,628	1,786	1,761
同志社女子大学	学芸学部	国際教養学科	587	718	619	804
立命館大学	文学部	人文学科	11,057	10,679	10,883	9,475
立命館大学	国際関係学部	国際関係学科	2,993	2,731	2,903	2,578
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	3,500	3,810	3,803	4,368
大阪学院大学	国際学部	国際学科	201	317	419	605
大阪経済法科大学	国際学部	国際学科	1,357	1,537	2,402	4,582
阪南大学	国際観光学部	国際観光学科	1,429	2,302	2,706	3,981
桃山学院大学	国際教養学部	英語・国際文化学科	2,098	2,032	2,392	3,250
関西学院大学	国際学部	国際学科	2,027	2,282	2,077	1,719
甲南女子大学	文学部	多文化コミュニケーション学科	859	992	1,084	1,428
神戸女子大学	文学部	国際教養学科			436	635
神戸国際大学	経済学部	国際文化ビジネス・観光学科	117	138	145	262
天理大学	国際学部	地域文化学科	124	101	121	105
総計			33,230	34,987	40,530	45,571

(株) リクルートマーケティングパートナーズ「入試実態データ」を大学が加工

【資料5-1】

【大谷大学】高校所在地別志願状況の推移(2016-2020)

2020年3月25日現在

地域	県名	平成28年度 (2016)		平成29年度 (2017)		平成30年度 (2018)		令和元年度 (2019)		令和2年度 (2020)		前年比	5ヶ年 平均
北海道		38	1.3%	54	1.7%	78	1.2%	97	1.3%	67	0.9%	69.1%	66.8
東北	青森	3	0.1%	2	0.1%	4	0.1%	2	0.0%	12	0.2%	600.0%	4.6
	岩手	1	0.0%	3	0.1%	4	0.1%	3	0.0%	11	0.2%	366.7%	4.4
	宮城	4	0.1%	2	0.1%	1	0.0%	3	0.0%	11	0.2%	366.7%	4.2
	秋田	3	0.1%	2	0.1%	7	0.1%	1	0.0%	4	0.1%	400.0%	3.4
	山形	2	0.1%	7	0.2%	3	0.0%	10	0.1%	5	0.1%	50.0%	5.4
	福島	2	0.1%	3	0.1%	1	0.0%	3	0.0%	6	0.1%	200.0%	3.0
	小計	15	0.5%	19	0.6%	20	0.3%	22	0.3%	49	0.7%	222.7%	25.0
関東	茨城	6	0.2%	7	0.2%	22	0.3%	26	0.4%	14	0.2%	53.8%	15.0
	栃木	13	0.4%	1	0.0%	4	0.1%	8	0.1%	4	0.1%	50.0%	6.0
	群馬	3	0.1%	16	0.5%	2	0.0%	6	0.1%	8	0.1%	133.3%	7.0
	埼玉	3	0.1%	0	0.0%	14	0.2%	7	0.1%	28	0.4%	400.0%	10.4
	千葉	11	0.4%	3	0.1%	18	0.3%	23	0.3%	26	0.4%	113.0%	16.2
	東京	13	0.4%	18	0.6%	15	0.2%	28	0.4%	18	0.3%	64.3%	18.4
	神奈川	5	0.2%	4	0.1%	24	0.4%	7	0.1%	15	0.2%	214.3%	11.0
	小計	54	1.8%	49	1.5%	99	1.5%	105	1.5%	113	1.6%	107.6%	84.0
甲信越	新潟	43	1.4%	27	0.8%	45	0.7%	73	1.0%	39	0.5%	53.4%	45.4
	山梨	0	0.0%	11	0.3%	32	0.5%	14	0.2%	27	0.4%	192.9%	16.8
	長野	13	0.4%	24	0.7%	21	0.3%	69	1.0%	33	0.5%	47.8%	32.0
	小計	56	1.9%	62	1.9%	98	1.5%	156	2.2%	99	1.4%	63.5%	94.2
北陸	富山	14	0.5%	17	0.5%	49	0.8%	27	0.4%	68	1.0%	251.9%	35.0
	石川	50	1.7%	36	1.1%	53	0.8%	68	0.9%	45	0.6%	66.2%	50.4
	福井	28	0.9%	46	1.4%	55	0.8%	96	1.3%	90	1.3%	93.8%	63.0
	小計	92	3.1%	99	3.1%	157	2.4%	191	2.6%	203	2.9%	106.3%	148.4
東海	岐阜	26	0.9%	38	1.2%	34	0.5%	58	0.8%	43	0.6%	74.1%	39.8
	静岡	46	1.5%	35	1.1%	100	1.5%	59	0.8%	95	1.3%	161.0%	67.0
	愛知	46	1.5%	47	1.5%	66	1.0%	78	1.1%	74	1.0%	94.9%	62.2
	三重	27	0.9%	33	1.0%	69	1.1%	92	1.3%	91	1.3%	98.9%	62.4
	小計	145	4.8%	153	4.8%	269	4.1%	287	4.0%	303	4.3%	105.6%	231.4
近畿	滋賀	617	20.6%	720	22.5%	1,404	21.6%	1,712	23.7%	1,844	25.9%	107.7%	1259.4
	京都	1,058	35.3%	1,059	33.0%	2,526	38.9%	2,292	31.8%	2,165	30.5%	94.5%	1820.0
	大阪	401	13.4%	425	13.3%	820	12.6%	1,104	15.3%	994	14.0%	90.0%	748.8
	兵庫	136	4.5%	162	5.1%	284	4.4%	333	4.6%	291	4.1%	87.4%	241.2
	奈良	81	2.7%	89	2.8%	162	2.5%	169	2.3%	186	2.6%	110.1%	137.4
	和歌山	51	1.7%	24	0.7%	66	1.0%	65	0.9%	67	0.9%	103.1%	54.6
	小計	2,344	78.2%	2,479	77.3%	5,262	81.1%	5,675	78.6%	5,547	78.1%	97.7%	4261.4
中国	鳥取	24	0.8%	10	0.3%	38	0.6%	24	0.3%	54	0.8%	225.0%	30.0
	島根	13	0.4%	12	0.4%	26	0.4%	26	0.4%	43	0.6%	165.4%	24.0
	岡山	22	0.7%	21	0.7%	31	0.5%	96	1.3%	61	0.9%	63.5%	46.2
	広島	24	0.8%	39	1.2%	54	0.8%	92	1.3%	64	0.9%	69.6%	54.6
	山口	20	0.7%	14	0.4%	57	0.9%	48	0.7%	67	0.9%	139.6%	41.2
	小計	103	3.4%	96	3.0%	206	3.2%	286	4.0%	289	4.1%	101.0%	196.0
四国	徳島	6	0.2%	21	0.7%	26	0.4%	46	0.6%	41	0.6%	89.1%	28.0
	香川	7	0.2%	9	0.3%	37	0.6%	74	1.0%	57	0.8%	77.0%	36.8
	愛媛	27	0.9%	37	1.2%	33	0.5%	57	0.8%	48	0.7%	84.2%	40.4
	高知	13	0.4%	23	0.7%	24	0.4%	34	0.5%	45	0.6%	132.4%	27.8
	小計	53	1.8%	90	2.8%	120	1.8%	211	2.9%	191	2.7%	90.5%	133.0
九州・沖縄	福岡	23	0.8%	11	0.3%	38	0.6%	39	0.5%	34	0.5%	87.2%	29.0
	佐賀	2	0.1%	0	0.0%	13	0.2%	11	0.2%	5	0.1%	45.5%	6.2
	長崎	8	0.3%	4	0.1%	5	0.1%	15	0.2%	18	0.3%	120.0%	10.0
	熊本	7	0.2%	8	0.2%	10	0.2%	3	0.0%	12	0.2%	400.0%	8.0
	大分	7	0.2%	9	0.3%	25	0.4%	8	0.1%	28	0.4%	350.0%	15.4
	宮崎	2	0.1%	3	0.1%	7	0.1%	6	0.1%	6	0.1%	100.0%	4.8
	鹿児島	16	0.5%	9	0.3%	9	0.1%	25	0.3%	24	0.3%	96.0%	16.6
	沖縄	4	0.1%	6	0.2%	16	0.2%	19	0.3%	54	0.8%	284.2%	19.8
	小計	69	2.3%	50	1.6%	123	1.9%	126	1.7%	181	2.5%	143.7%	109.8
その他(高等学校以外)		27	0.9%	54	1.7%	58	0.9%	61	0.8%	64	0.9%	104.9%	52.8
合計		2,996	100.0%	3,205	100.0%	6,490	100.0%	7,217	100.0%	7,106	100.0%	98.5%	5402.8

5,294
95.4%

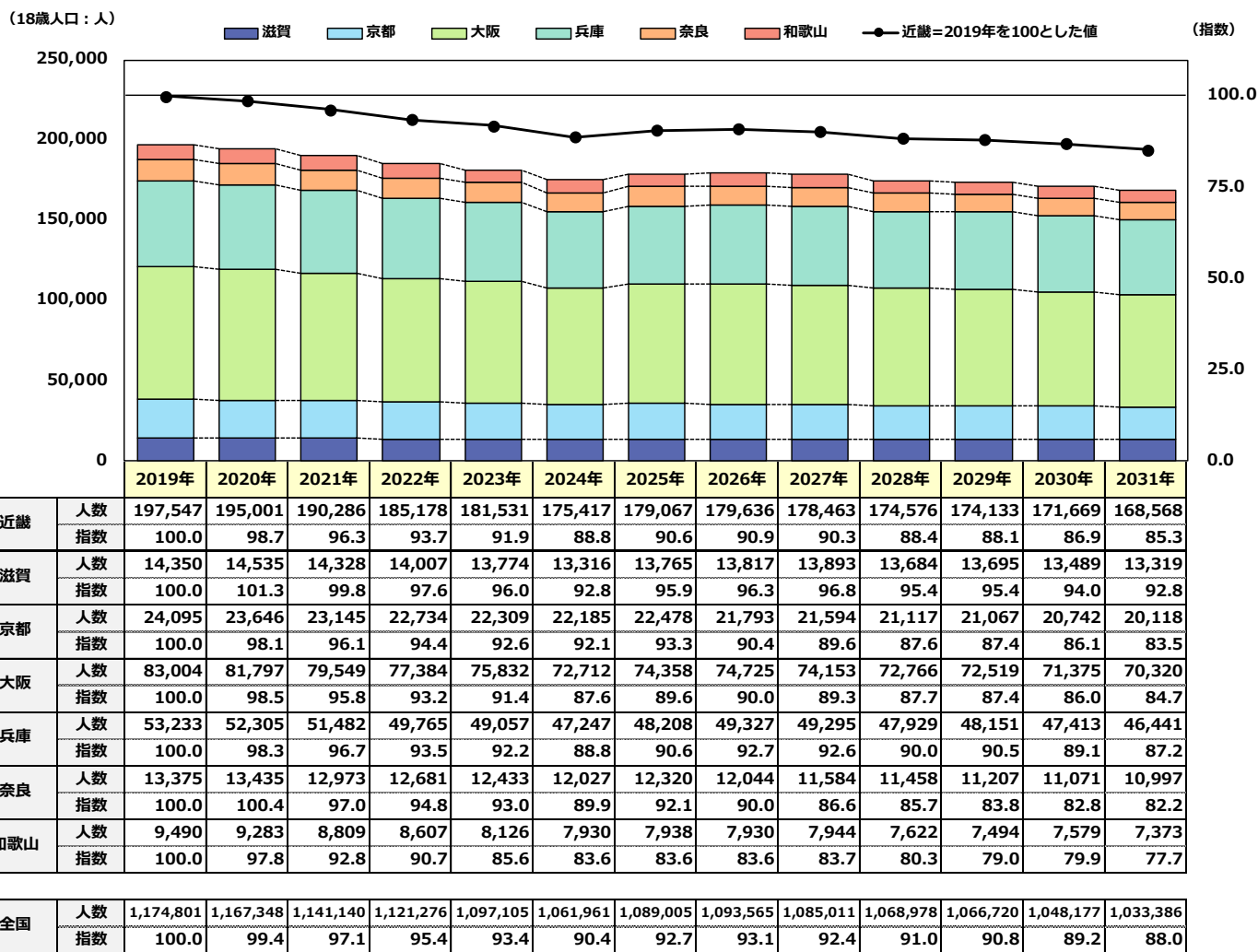
【大谷大学】高校所在地別入学状況の推移(2015-2019)

地域	県名	平成27年度 (2015)		平成28年度 (2016)		平成29年度 (2017)		平成30年度 (2018)		令和元年度 (2019)		前年比	5ヶ年 平均
北海道		14	1.9%	18	2.4%	18	2.1%	16	2.0%	12	1.5%	75.0%	15.6
東北	青森	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	N/A	0.4
	岩手	2	0.3%	1	0.1%	2	0.2%	1	0.1%	2	0.2%	200.0%	1.6
	宮城	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	N/A	0.6
	秋田	0	0.0%	2	0.3%	1	0.1%	3	0.4%	0	0.0%	0.0%	1.2
	山形	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%	200.0%	1.0
	福島	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	N/A	0.6
	小計	6	0.8%	6	0.8%	5	0.6%	5	0.6%	5	0.6%	100.0%	5.4
関東	茨城	1	0.1%	2	0.3%	1	0.1%	3	0.4%	3	0.4%	100.0%	2.0
	栃木	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	N/A	0.4
	群馬	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	N/A	0.6
	埼玉	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0.0%	0.4
	千葉	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.4%	N/A	0.8
	東京	3	0.4%	5	0.7%	3	0.4%	3	0.4%	5	0.6%	166.7%	3.8
	神奈川	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%	1	0.1%	3	0.4%	300.0%	1.6
	小計	6	0.8%	10	1.3%	7	0.8%	8	1.0%	17	2.1%	212.5%	9.6
甲信越	新潟	11	1.5%	7	0.9%	11	1.3%	8	1.0%	7	0.9%	87.5%	8.8
	山梨	2	0.3%	0	0.0%	2	0.2%	5	0.6%	2	0.2%	40.0%	2.2
	長野	4	0.5%	5	0.7%	5	0.6%	1	0.1%	13	1.6%	1300.0%	5.6
	小計	17	2.3%	12	1.6%	18	2.1%	14	1.7%	22	2.7%	157.1%	16.6
北陸	富山	7	0.9%	4	0.5%	5	0.6%	4	0.5%	4	0.5%	100.0%	4.8
	石川	14	1.9%	11	1.5%	10	1.2%	9	1.1%	9	1.1%	100.0%	10.6
	福井	6	0.8%	7	0.9%	11	1.3%	10	1.2%	12	1.5%	120.0%	9.2
	小計	27	3.6%	22	2.9%	26	3.0%	23	2.9%	25	3.1%	108.7%	24.6
東海	岐阜	10	1.3%	5	0.7%	9	1.1%	5	0.6%	13	1.6%	260.0%	8.4
	静岡	4	0.5%	8	1.1%	7	0.8%	4	0.5%	9	1.1%	225.0%	6.4
	愛知	7	0.9%	17	2.2%	16	1.9%	13	1.6%	11	1.3%	84.6%	12.8
	三重	9	1.2%	7	0.9%	14	1.6%	7	0.9%	12	1.5%	171.4%	9.8
	小計	30	4.0%	37	4.9%	46	5.4%	29	3.6%	45	5.5%	155.2%	37.4
近畿	滋賀	136	18.1%	153	20.2%	187	21.9%	183	22.7%	156	19.1%	85.2%	163.0
	京都	277	36.9%	275	36.3%	323	37.8%	315	39.0%	273	33.4%	86.7%	292.6
	大阪	108	14.4%	108	14.2%	96	11.2%	109	13.5%	125	15.3%	114.7%	109.2
	兵庫	36	4.8%	31	4.1%	36	4.2%	20	2.5%	26	3.2%	130.0%	29.8
	奈良	17	2.3%	20	2.6%	28	3.3%	21	2.6%	23	2.8%	109.5%	21.8
	和歌山	7	0.9%	11	1.5%	5	0.6%	14	1.7%	6	0.7%	42.9%	8.6
	小計	581	77.5%	598	78.9%	675	79.0%	662	82.0%	609	74.4%	92.0%	625.0
中国	鳥取	3	0.4%	2	0.3%	2	0.2%	2	0.2%	0	0.0%	0.0%	1.8
	島根	2	0.3%	4	0.5%	2	0.2%	3	0.4%	3	0.4%	100.0%	2.8
	岡山	6	0.8%	3	0.4%	3	0.4%	2	0.2%	7	0.9%	350.0%	4.2
	広島	6	0.8%	4	0.5%	6	0.7%	4	0.5%	9	1.1%	225.0%	5.8
	山口	4	0.5%	3	0.4%	1	0.1%	3	0.4%	6	0.7%	200.0%	3.4
	小計	21	2.8%	16	2.1%	14	1.6%	14	1.7%	25	3.1%	178.6%	18.0
四国	徳島	5	0.7%	1	0.1%	4	0.5%	1	0.1%	6	0.7%	600.0%	3.4
	香川	4	0.5%	2	0.3%	4	0.5%	3	0.4%	8	1.0%	266.7%	4.2
	愛媛	5	0.7%	4	0.5%	7	0.8%	4	0.5%	7	0.9%	175.0%	5.4
	高知	7	0.9%	2	0.3%	4	0.5%	6	0.7%	7	0.9%	116.7%	5.2
	小計	21	2.8%	9	1.2%	19	2.2%	14	1.7%	28	3.4%	200.0%	18.2
九州・沖縄	福岡	6	0.8%	8	1.1%	6	0.7%	7	0.9%	7	0.9%	100.0%	6.8
	佐賀	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.2%	3	0.4%	-	1.4
	長崎	1	0.1%	2	0.3%	2	0.2%	1	0.1%	3	0.4%	300.0%	1.8
	熊本	4	0.5%	2	0.3%	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	100.0%	2.4
	大分	3	0.4%	3	0.4%	2	0.2%	3	0.4%	3	0.4%	100.0%	2.8
	宮崎	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.2%	N/A	1.0
	鹿児島	4	0.5%	6	0.8%	5	0.6%	2	0.2%	3	0.4%	150.0%	4.0
	沖縄	0	0.0%	2	0.3%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.4%	N/A	1.2
小計	20	2.7%	25	3.3%	19	2.2%	17	2.1%	26	3.2%	152.9%	21.4	
その他(高等学校以外)		7	0.9%	5	0.7%	7	0.8%	5	0.6%	4	0.5%	80.0%	5.6
合計		750	#####	758	#####	854	#####	807	#####	818	#####	101.4%	797.4

580
95.2%

■ 2019年197,547人→2031年168,568人（28,979人減少）

- ・近畿エリアは13年間で28,979人・14.7%減少し、全国の減少率12.0%を2.7ポイント上回る。
- ・2024年に175,417人まで減少し、2026年までに4,219人増加するが、その後再び減少に転じる。
- ・減少率が高いのは、和歌山県（2019年比較22.3%）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2019年83,004人→2031年70,320人、12,684人減少）。



【資料7】

近畿 2府4県の18歳人口予測

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
近畿 18歳人口	197,547	195,001	190,286	185,178	181,531	175,417	179,067	179,636	178,463	174,576	174,133	171,669	168,568
前年対比 増減数	-	-2,546	-4,715	-5,108	-3,647	-6,114	3,650	569	-1,173	-3,887	-443	-2,464	-3,101
19対比 増減数	-	-2,546	-7,261	-12,369	-16,016	-22,130	-18,480	-17,911	-19,084	-22,971	-23,414	-25,878	-28,979
指数	100.0%	98.7%	96.3%	93.7%	91.9%	88.8%	90.6%	90.9%	90.3%	88.4%	88.1%	86.9%	85.3%

滋賀・京都・大阪・兵庫 2府2県の18歳人口予測

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
滋賀 18歳人口	14,350	14,535	14,328	14,007	13,774	13,316	13,765	13,817	13,893	13,684	13,695	13,489	13,319
京都 18歳人口	24,095	23,646	23,145	22,734	22,309	22,185	22,478	21,793	21,594	21,117	21,067	20,742	20,118
大阪 18歳人口	83,004	81,797	79,549	77,384	75,832	72,712	74,358	74,725	74,153	72,766	72,519	71,375	70,320
兵庫 18歳人口	53,233	52,305	51,482	49,765	49,057	47,247	48,208	49,327	49,295	47,929	48,151	47,413	46,441
合計	174,682	172,283	168,504	163,890	160,972	155,460	158,809	159,662	158,935	155,496	155,432	153,019	150,198
前年対比 増減数	-	-2,399	-3,779	-4,614	-2,918	-5,512	3,349	853	-727	-3,439	-64	-2,413	-2,821
19対比 増減数	-	-2,399	-6,178	-10,792	-13,710	-19,222	-15,873	-15,020	-15,747	-19,186	-19,250	-21,663	-24,484
指数	100.0%	98.6%	96.5%	93.8%	92.2%	89.0%	90.9%	91.4%	91.0%	89.0%	89.0%	87.6%	86.0%

リクルート進学総研「マーケットレポートVol.78 2020年1月号」よりデータを抽出して作成。データは文部科学省 学校基本調査(令和元年のみ速報値)。

「指数」は令和元年(2019)の値を100とおいた際の値をあらわす。

2019・2020年度志願実績をもとにした滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者数シミュレーション

【実績値】

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
滋賀 18歳人口	14,350	14,535	14,328	14,007	13,774	13,316	13,765	13,817	13,893	13,684	13,695	13,489	13,319
志願者	1,712	1,844	1,764	1,724	1,695	1,639	1,694	1,701	1,710	1,684	1,686	1,660	1,639
出願割合	11.93%	12.69%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%	12.31%
19・20の 平均値	12.31%												

【実績値】

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
京都 18歳人口	24,095	23,646	23,145	22,734	22,309	22,185	22,478	21,793	21,594	21,117	21,067	20,742	20,118
志願者	2,292	2,165	2,160	2,122	2,082	2,071	2,098	2,034	2,016	1,971	1,966	1,936	1,878
出願割合	9.51%	9.16%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%	9.33%
19・20の 平均値	9.33%												

【実績値】

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
大阪 18歳人口	83,004	81,797	79,549	77,384	75,832	72,712	74,358	74,725	74,153	72,766	72,519	71,375	70,320
志願者	1,104	994	1,012	985	965	925	946	951	944	926	923	908	895
出願割合	1.33%	1.22%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%	1.27%
19・20の 平均値	1.27%												

【実績値】

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
兵庫 18歳人口	53,233	52,305	51,482	49,765	49,057	47,247	48,208	49,327	49,295	47,929	48,151	47,413	46,441
志願者	333	291	304	294	290	279	285	291	291	283	285	280	274
出願割合	0.63%	0.56%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%	0.59%
19・20の 平均値	0.59%												

【実績値】

	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
2府2県の 志願者合計	5,441	5,294	5,241	5,125	5,033	4,914	5,024	4,977	4,961	4,865	4,860	4,785	4,687
前年対比 増減数	-	-147	-53	-116	-92	-118	109	-46	-17	-96	-5	-75	-98
19対比 増減数	-	-147	-200	-316	-408	-527	-417	-464	-480	-576	-581	-656	-754

大谷大学「国際学部 国際文化学科（仮称）」
設置構想についての高校生アンケート調査
報告書

令和2年2月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1 調査の概要	1
2 全質問項目の集計結果	3
3 集計結果のポイント	6

添付資料

「大谷大学 国際学部 国際文化学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」用紙

1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、大谷大学が令和3年4月設置に向けて構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：令和元年10月～令和2年1月
- ◆調査対象：令和2年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、令和元年度の高校2年生をアンケートの対象とした。
- ◆調査方法：大谷大学が構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」への通学が可能である近隣的高等学校及び系列校の計407校に実施を依頼。実施の承認が得られた60校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校2年生にアンケート用紙を配布の上、回答後その場で回収した。
依頼対象校の内訳は以下の通り。

地域	学校数
京都府	93校
滋賀県	54校
大阪府	183校
奈良県	37校
兵庫県	27校
その他	13校
合計	407校

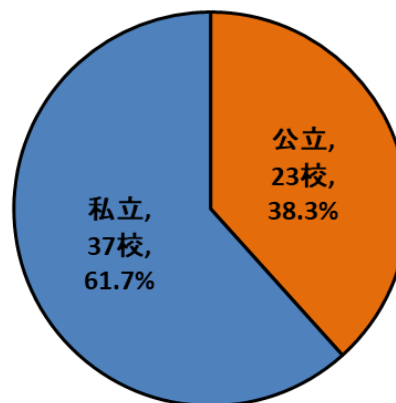
- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、全て選択肢式とした。
主な質問内容は、以下の通りである。
『回答者の基本情報（性別・居住地）について』
『回答者の高校卒業後の希望進路について』
『大谷大学「国際学部 国際文化学科（仮称）」への受験・入学意欲について』
- ◆実施校：60校（実施率 14.7% / 依頼数 407校）
- ◆回答件数：6,921件

◆実施高校：本アンケートに協力いただいた60校の詳細は以下の通り。

1. 都道府県別の実施高校数

	公立	私立	合計	割合
北海道		2校	2校	3.3%
石川県		1校	1校	1.7%
長野県		1校	1校	1.7%
愛知県		3校	3校	5.0%
滋賀県	8校	5校	13校	21.7%
京都府	7校	11校	18校	30.0%
大阪府	4校	10校	14校	23.3%
奈良県	4校	3校	7校	11.7%
大分県		1校	1校	1.7%
合計	23校	37校	60校	100.0%
割合	38.3%	61.7%	100.0%	

2. 設置者別の実施高校数



2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

3～5 ページは、アンケートで回答を得た 6,921 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1 あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

※ 回答のあった選択肢のみ掲載

選択項目	回答数	構成比
北海道	288	4.2%
石川県	100	1.4%
長野県	86	1.2%
岐阜県	17	0.2%
愛知県	493	7.1%
三重県	9	0.1%
滋賀県	1529	22.1%
京都府	2124	30.7%
大阪府	1574	22.7%
兵庫県	54	0.8%
奈良県	392	5.7%
和歌山県	9	0.1%
福岡県	49	0.7%
大分県	113	1.6%
無回答	84	1.2%
計	6,921	100.0%

問2 あなたの性別をお答えください。(あてはまるものにマーク)

選択項目	回答数	構成比
男性	3250	47.0%
女性	3591	51.9%
無回答	80	1.2%
計	6,921	100.0%

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク)

選択項目	回答数	構成比
進学	5,688	82.2%
就職	492	7.1%

現時点では未定	659	9.5%
無回答	82	1.2%
計	6,921	100.0%

問4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 6,921 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)	2,041	29.5%
社会科学(法学・政治学、商学・経営学、経済学、社会学、地域学など)	1,722	24.9%
理学・工学(数学、物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、電気電子工学、応用化学、材料工学、建築学など)	896	12.9%
農学(農学、農業経済学、林学、水産学など)	218	3.1%
医学・歯学・薬学	457	6.6%
保健衛生学(看護学、リハビリ、臨床検査学、放射線など)	1,153	16.7%
家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	550	7.9%
芸術学(音楽、デザイン、美術など)	1,003	14.5%
教育学・保育	1,291	18.7%
その他	1,060	15.3%

問5 あなたは大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目	回答数	構成比
受験したい	300	4.3%
現時点では受験しない	6,398	92.4%
無回答	223	3.2%
計	6,921	100.0%

以下の問6・問7は、問5で「受験したい」を選択した 300 人の集計結果。

問6 あなたは大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目	回答数	構成比
合格した場合、入学したい	127	42.3%
合格した場合、併願先の結果によっては入学したい	166	55.3%

無回答	7	2.3%
計	300	100.0%

問7 大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」には以下の3つのコースが設けられる予定です。現時点であなたが最も興味・関心のあるコースをお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目	回答数	構成比
英語コミュニケーションコース	136	45.3%
欧米文化コース	39	13.0%
アジア文化コース	42	14.0%
現時点では未定	67	22.3%
無回答	16	5.3%
計	300	100.0%

以下の問8は、問5で「現時点では受験しない」と選択した 6,398 人の集計結果

問8 あなたが大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」の受験について「現時点では受験しない」とされた理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 6,398 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
国際学部 国際文化学科(仮称)に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	508	7.9%
大谷大学の他の学部・学科に興味・関心があるから	365	5.7%
興味・関心のある学部・学科ではないから	2,277	35.6%
通学に時間がかかりそうだから	423	6.6%
学費が高いから	468	7.3%
国立大学への進学を希望しているから	560	8.8%
他の私立大学への進学を希望しているから	1,675	26.2%
短期大学への進学を希望しているから	251	3.9%
専門学校への進学を希望しているから	863	13.5%
就職を希望しているから	461	7.2%
高校卒業後の希望進路は現時点では未定だから	633	9.9%
その他	680	10.6%

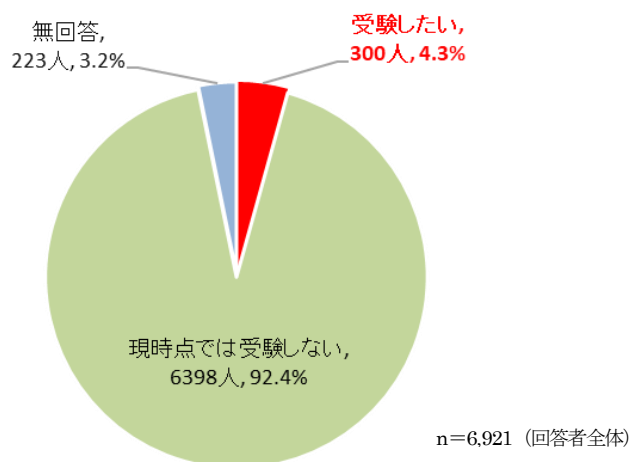
3 集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

● 「国際学部 国際文化学科 (仮称)」に対し、300 人が受験意欲を示す

設置構想中の「国際学部 国際文化学科 (仮称)」の概要を示した上で、受験意欲について質問したところ、300 人 (回答者全体の 4.3%) が「受験したい」と回答した。

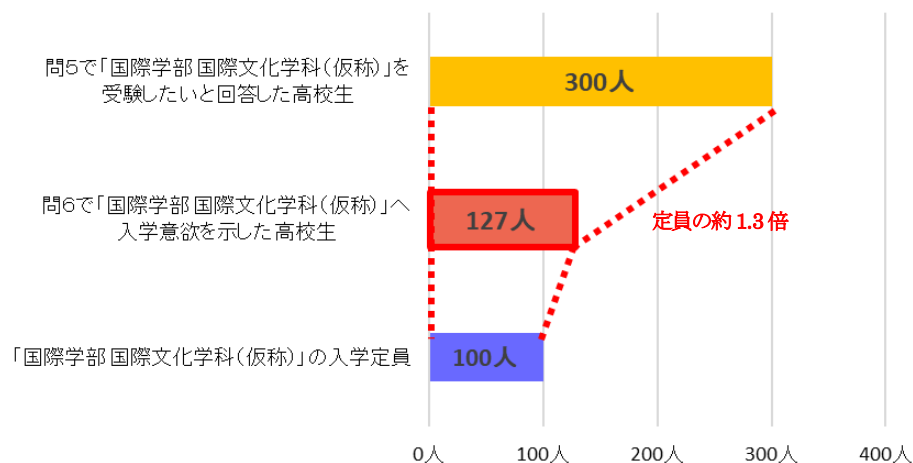
グラフ 「国際学部 国際文化学科 (仮称)」への受験意欲 (「問5」結果より)



● 127 人が「国際学部 国際文化学科 (仮称)」に「入学したい」と回答

「受験したい」と回答した 300 人のうち、入学意欲について質問したところ、予定される入学定員 100 名を超える 127 人が「合格した場合、入学したい」と回答、166 人が「合格した場合、併願先の結果によっては入学したい」と回答した。「国際学部 国際文化学科 (仮称)」が予定する入学定員 100 名を超える入学希望者が存在することが確認された。

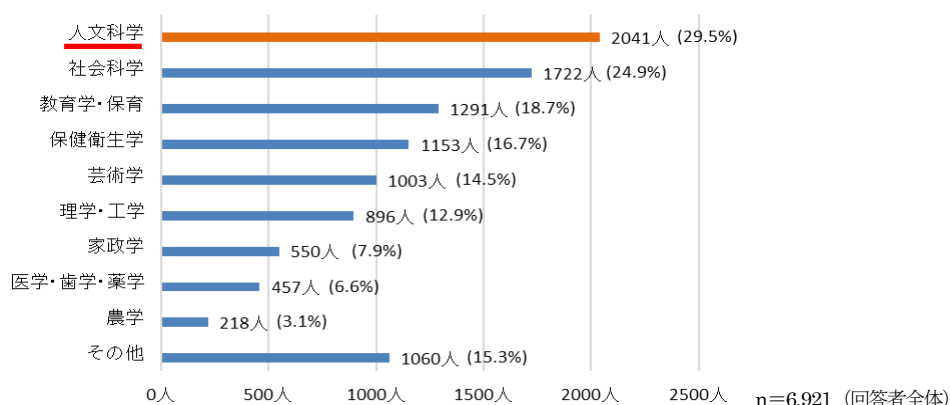
グラフ 「国際学部 国際文化学科 (仮称)」への入学意欲 (「問6」結果より)



● 関心ある学門分野に、2,041人が「人文科学」を選択

回答を得た高校生 6,921 人のうち、関心のある学問分野として、全体の 29.5%にあたる 2,041 人が「人文科学（文学、史学、哲学、心理学、外国語学など）」を選択し、設置構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」と同じ学問分野がもっとも多い回答となった。その他では、24.9%にあたる 1,722 人が「社会科学（法学・政治学、商学・経営学、経済学、社会学、地域学など）」を選択、18.7%にあたる 1,291 人が「教育学・保育」を選択し、人文科学に続く回答数となった。（複数回答の結果）。

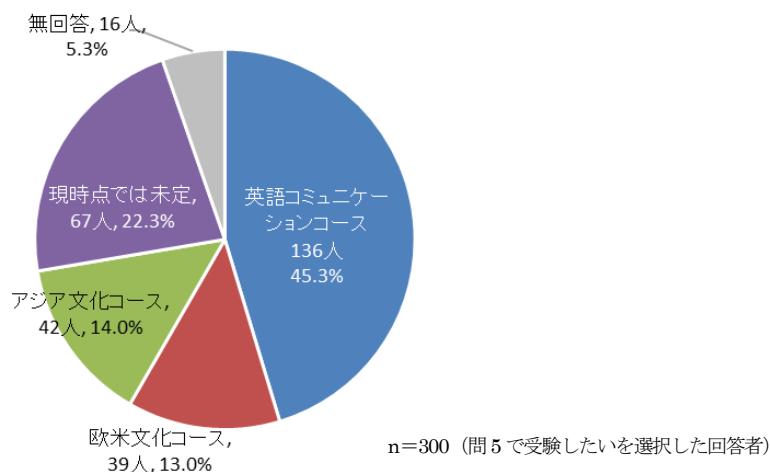
グラフ 関心のある学問分野（「問4」結果より）※複数回答の結果、回答の多い順



● コース別では、「英語コミュニケーションコース」が最も興味・関心を集める

「受験したい」とした回答者 300 人に対し、「国際学部 国際文化学科（仮称）」に設置予定の 3 つのコースの中で最も興味・関心のあるコースについて質問したところ、約半数となる 136 人（回答者 300 人のうち、45.3%）が「英語コミュニケーションコース」と回答した。「アジア文化コース」と「欧米文化コース」を選んだ高校生はそれぞれ 42 人（同 14.0%）、39 人（同 13.0%）とほぼ同数であった。

グラフ 興味・関心のあるコース（「問7」結果より）

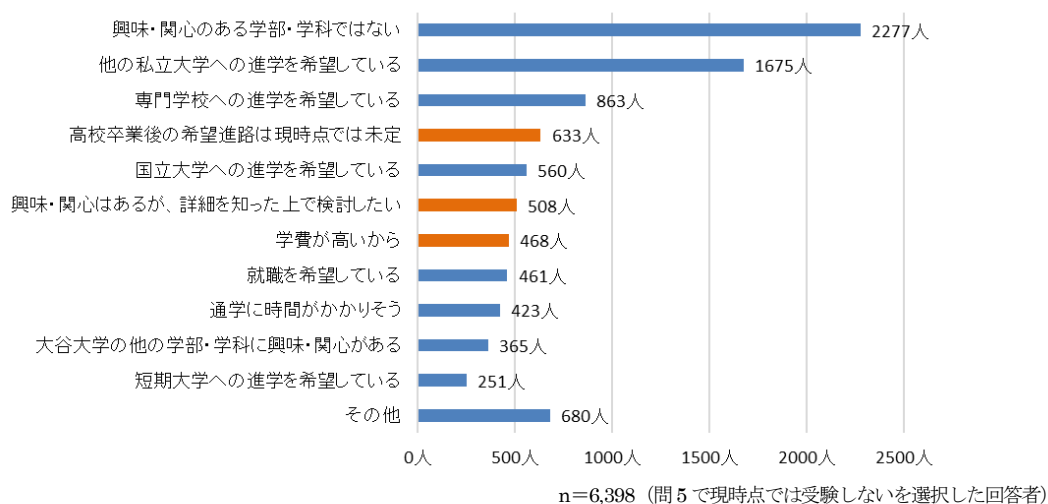


● 受験・入学意欲を示した者のほかにも、今後の広報活動を通して受験者になり得る者が存在

設置構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」を「現時点では受験しない」とした 6,398 人に対し、その理由について質問したところ「国際学部 国際文化学科（仮称）」に興味はあるが、詳細を知った上で検討したいから」とした回答者が 508 人（回答者 6,398 人のうち、7.9%）、「学費が高いから」とした回答者が 468 人（同 7.3%）、「高校卒業後の希望進路は現時点では未定だから」とした回答者が 633 人（同 9.9%）存在した。

「現時点では受験しない」としたものの、奨学金等の経済的支援策の充実、また今後の広報活動を通じて受験者になり得る者も一定数存在することが確認できる。

グラフ 「国際学部 国際文化学科（仮称）」を受験しない理由（問5結果より）



以上の結果より、大谷大学が令和3年4月に設置構想中である「国際学部 国際文化学科（仮称）」の学生の確保の見通しは、予定する入学定員を上回る回答を得たため、入学定員の確保は十分に可能であると判断できる。

添付資料

「大谷大学 国際学部 国際文化学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」用紙



大谷大学 国際学部 国際文化学科 〔 仮 称 設置構想中 〕

設置構想についての高校生アンケート調査

(対象：2019年度現在、高校2年生の皆さん)

大谷大学(京都市北区小山上総町)は、文学部国際文化学科を発展的に改組し、2021年4月に「国際学部 国際文化学科(仮称)」を設置することを構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、2020年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、設置構想の参考とさせていただき、構想内容に反映したいと考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は、大谷大学の「国際学部 国際文化学科(仮称)」設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は大谷大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

記入例を参考にご回答ください。

正しい 誤り

● 0 0 0

問1 あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 福島県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 神奈川県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 長野県 | |
| <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 三重県 | | | |
| <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | |
| <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 山口県 | | |
| <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 高知県 | | | |
| <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 | <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 沖縄県 | | | | | | |

問2 あなたの性別をお答えください。(あてはまるものにマーク)

- 男性 女性

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク)

- 進学 就職 現時点では未定

問4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 人文科学(文学、歴史学、哲学、心理学、国際文化学、外国語学など)
- 社会科学(法学・政治学、商学・経営学、経済学、社会学、地域学など)
- 理学・工学(数学、物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、電気電子工学、応用化学、材料工学、建築学など)
- 農学(農学、農業経済学、林学、水産学など)
- 医学・歯学・薬学
- 保健衛生学(看護学、リハビリ、臨床検査学、放射線など)
- 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)
- 芸術学(音楽、デザイン、美術など)
- 教育学・保育
- その他





問5以降は、大谷大学「国際学部 国際文化学科(仮称)」の概要(別紙リーフレット)
をご覧の上でお答えください。

問5 あなたは大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」を受験したいと思いますか。
(あてはまるもの1つにマーク)

- 受験したい ⇒ 以下の問6・7にお答えください。
 現時点では受験しない ⇒ 以下の問8にお答えください。

以下の問6・7は、問5で「受験したい」と回答した方がお答えください。

問6 あなたは大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 合格した場合、入学したい
 合格した場合、併願先の結果によっては入学したい

問7 大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」には以下の3つのコースが設けられる予定です。現時点であなたが最も興味・関心のあるコースをお答えください。
(あてはまるもの1つにマーク)

- 英語コミュニケーションコース 欧米文化コース アジア文化コース 現時点では未定

※上記のコース名称は仮称です。名称、コース設定内容は今後、変更になる場合があります。

以下の問8は、問5で「現時点では受験しない」と回答した方がお答えください。

問8 あなたが大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」の受験について「現時点では受験しない」とされた理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 国際学部 国際文化学科(仮称)に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 大谷大学の他の学部・学科に興味・関心があるから
 興味・関心のある学部・学科ではないから 通学に時間がかかりそうだから
 学費が高いから 国立大学への進学を希望しているから
 他の私立大学への進学を希望しているから 短期大学への進学を希望しているから
 専門学校への進学を希望しているから 就職を希望しているから
 高校卒業後の希望進路は現時点では未定だから その他

質問は以上となります。ご協力いただき、ありがとうございました。



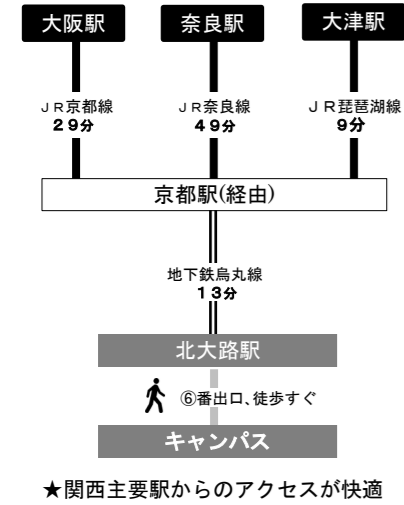
◆ 取得可能な免許・資格

中学校教諭一種【英語】、高等学校教諭一種【英語】、学校図書館司書教諭（教員免許状取得前提）、図書館司書、文書情報管理士2級、ファイリング・デザイナー検定3級、真宗大谷派教師、社会教育主事任用資格、社会福祉主事任用資格、博物館学芸員

◆ 卒業後の想定進路

観光業（旅行会社、ホテル・旅館業）、航空会社（CA、グラウンドスタッフ）、交通・運輸、外食・サービス、流通・小売、中・高教諭、国家・地方公務員、真宗大谷派宗務所 など

◆ アクセス



※いずれの場合にも乗り換え等必要な時間は含まれていません。

◆ 学費（他大学との比較）

大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設費・教育充実費等	初年次納付金合計
大谷大学	国際学部(仮称)	国際文化学科(仮称)	250,000	840,000	100,000	1,190,000
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科	270,000	858,000	108,000	1,236,000
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	200,000	806,000	70,000	1,076,000
大阪産業大学	国際学部	国際学科	250,000	792,000	52,000	1,094,000
大阪経済法科大学	国際学部	国際学科	200,000	996,000	-	1,196,000
神戸学院大学	グローバルコミュニケーション学部	グローバルコミュニケーション学科	300,000	810,000	210,000	1,320,000

- ◆ 他大学の学費は各大学のホームページの掲載情報です(2019年9月時点)。
- ◆ いずれも諸会費を含みません。また、実習等に伴う費用・経費が別途必要な場合があります。



国際学部 国際文化学科

(学部・学科名称はともに仮称・設置構想中)

2021年4月誕生



※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

この「概要」をご覧の上、
中にあるアンケート調査にご回答ください。

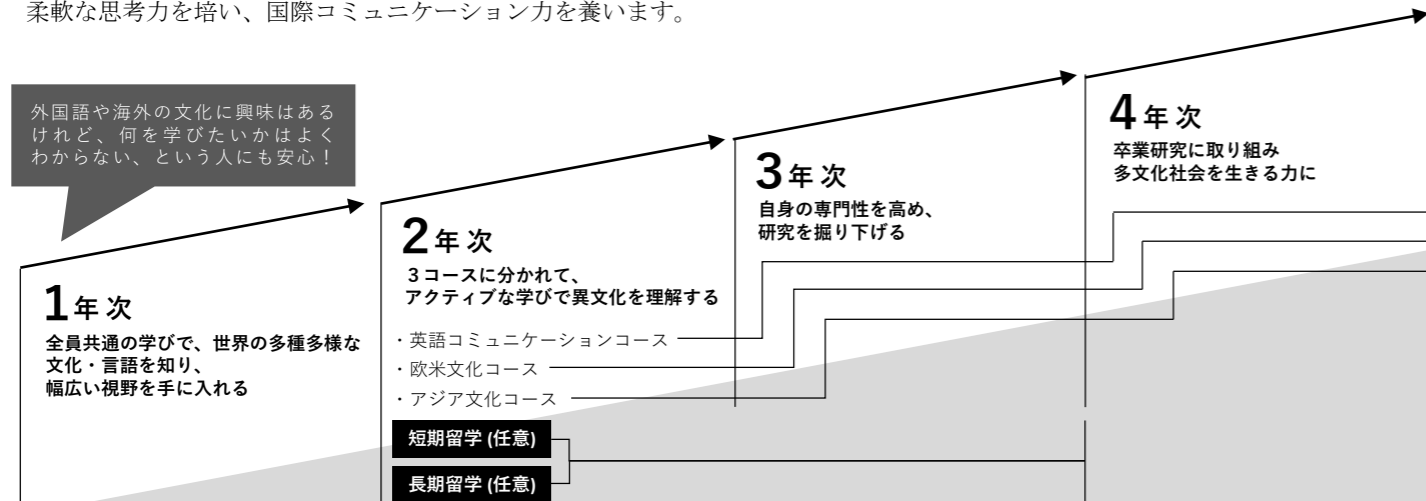
※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

◆ 養成する人物

グローバルな世界とローカルな地域社会を結びつける「グローバル」な視点に立ち、身近な他者の存在に気づき、多文化社会への深い理解と共生のために幅広く活躍できる人物を育成します。

◆ 学びの特色

異文化という鏡で自文化を見直しながら、多様な文化の豊かさを人生の豊かさにつなげる方法を探究します。英米、西欧、東アジアの文化や社会を深く理解し、欧米とアジアから日本を、日本からアジアと欧米を見る複眼的の学びを通して、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、国際コミュニケーション力を養います。



4年間で身につく「力」

- ・外国語を使用して「聞く」「読む」「話す」「書く」力を身につけ、十分なコミュニケーションができる。
- ・論理的な日本語力を身につけ、的確に議論できる。
- ・国際人として必要な、人間・社会・自然環境についての幅広い知識・知見が身につく。
- ・ものごとを多角的に考察し、多文化共生のための問題解決策を提案できる。
- ・文化的背景の異なる他者と自己への理解を深めながら、さまざまな課題を設定し、主体的に問題解決に取り組むことができる。

2年次から、興味・関心にあった専門コースを選択!

英語コミュニケーションコース

こんな人におすすめ

英語力の向上に特化したコースで英語を集中的に鍛えたい!

英語力強化カリキュラムを組み、英語集中プログラム、英語キャンプ、約1ヶ月の海外英語研修(カナダを予定)※を必修とします。英語を通じて世界各地の文化・社会について学ぶことにより、グローバルな思考力を養うと同時に、京都をフィールドとする実践型の学びも展開。キャリア教育との連携により、国際的な視野で社会貢献できる人物を育成します。

※研修費は別途必要です。

欧米文化コース

こんな人におすすめ

世界中に影響を与えているヨーロッパやアメリカの文化や社会・歴史を学びたい!

英米やフランス、ドイツに関する文献・資料の精読と分析を通して、グローバル化の本質を理解するとともに、国際コミュニケーション力の基盤となる論理的思考力と表現力を鍛えます。インターネットを活用した外国語での情報の収集、分析、発信などにも取り組みます。

アジア文化コース

こんな人におすすめ

中国、韓国・朝鮮の文化や歴史を学びたい!

中国文化と韓国・朝鮮文化は単に中国と朝鮮半島にとどまるものではありません。華人社会やコリアンタウンは日本を含む世界中に広がっており、ダイナミックな人の移動によっても文化は変容しています。アジアに学ぶことで、躍動する現代社会を生き抜くうえで必要な視角を養います。

※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

京都、国内で国際体験

学内国際体験

学内では、授業での国際体験はもちろん、授業外イベントなど、授業内外で留学生とコミュニケーションをとる機会が豊富にあります。



<Pick up! 授業>

実践文化演習 (語学集中)

ネイティブ教員による、初修外国語(ドイツ語/フランス語/中国語/韓国・朝鮮語)の集中クラスです。コミュニケーション能力を高め、日常会話や意見交換ができるようになることを目指します。授業の最後には外国語交流会で、習った言語を実際に使用して力を確かめます。留学のための基礎固めにも活用できます。

<Pick up! 授業外イベント>

留学生とおしゃべりする「外国語カフェ」

外国語カフェは異文化交流や外国語会話を目的としたお茶会です。英語、ドイツ語、中国語などで留学生と交流できます。GLOBAL SQUAREアシスタントの学生がサポートする楽しいイベントです。

地域国際体験

学外では、京都を訪れている外国人や留学生と接するフィールドラーニングや、留学生との交流合宿など体験型の学びを実践します。



<Pick up! 授業>

English Workshopヴァージニア工科大学(アメリカ)との交流

アメリカのヴァージニア工科大学研修団との英語合宿を開催しました。これは、京都をフィールドに実践的に英語を学ぶ授業「ENGLISH WORKSHOP & CAMP」の一環として行われるもので、全15回のカリキュラムの締めくくりとなります。これまでの授業で培ってきた英語運用力を生かして、異文化理解を深めます。

<pick up! 授業 (フィールドラーニング) >

比較文化講義

「比較文化講義1・2」では、英語圏と非英語圏それぞれの国における英語の役割を理解することを目指し、留学生とのディスカッションや外国人へのアンケート調査に取り組みます。文化や歴史、言葉をテーマに、様々なバックグラウンドをもつ外国人とコミュニケーションをとることで、独自の視点を得て、異文化理解を深めてほしいと考えています。

GLOBAL SQUARE (語学学習支援室)

POINT 01 留学サポート

留学説明会や学術交流協定校の紹介など、個別相談を行います。有意義な留学のための事前オリエンテーションを実施したり、留学中の相談にも対応したりと、目的や状況にあわせてきめ細かくサポートします。

POINT 02 外国語学習サポート

さまざまな言語を対象とした外国語勉強会を開いています。アットホームな雰囲気、少人数制で、楽しく語学力アップがめざせます。「語学検定試験料補助制度」を設け、検定試験受験を支援しています。

POINT 03 留学生との交流

本学に留学中の外国人留学生が、アシスタントとして毎週決まった時間にGLOBAL SQUAREに在室しています。外国語カフェなどのイベントもここで開催しています。



海外で国際体験

短期語学・文化研修 (2~3週間)

事前学習後、夏または春の長期休暇に実施。語学研修と文化研修の2種類があります。

【語学力を高める】

カナダ・中国・台湾・韓国から選び、現地で生きた語学を学ぶ

【文化を理解する】

ヨーロッパ・インド・中国から選び、現地で文化を学ぶ



長期留学 (6ヶ月~1年間)

一定の要件を満たせば本学の在学期間として認められ、通常の修業年数で卒業でき、留学先の単位も認定されます。

【学術交流協定校 (27校)】

カナダ (2校)、アメリカ (3校)、イギリス (1校)、フランス (1校)、ドイツ (1校)、ハンガリー (1校)、オーストラリア (4校)、中国 (6校)、モンゴル (1校)、韓国 (4校)、台湾 (1校)、ベトナム (1校)、スリランカ (1校)

※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

【資料10】

京阪神地区私立大学 国際系学部 入学初年度学費等年間納付額(2020年度)一覧

大学	学部	学科	入学初年度年間納付額(学費)			
			入学金	授業料	施設設備費 教育充実費	総額
【参考】私立大学等の 平成30年度入学者に係る 学生納付金等調査結果	文科系学部	-	229,997	785,581	151,344	1,166,922
大谷大学	国際学部	国際文化学科	250,000	840,000	100,000	1,190,000
立命館大学	国際関係学部	国際関係学科	200,000	1,263,800	-	1,463,800
京都外国語大学	国際貢献学部	グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科	230,000	795,000	415,000	1,440,000
同志社女子大学	学芸学部	国際教養学科	260,000	820,000	240,000	1,320,000
桃山学院大学	国際教養学部	英語・国際文化学科	230,000	729,000	300,000	1,259,000
大阪学院大学	国際学部	国際学科	200,000	928,000	120,000	1,248,000
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科	270,000	858,000	108,000	1,236,000
同志社大学	グローバル地域文化学部	グローバル地域文化学科	200,000	870,000	149,000	1,219,000
大阪経済法科大学	国際学部	国際学科	200,000	996,000	-	1,196,000
京都産業大学	文化学部	国際文化学科、京都文化学科	270,000	788,000	108,000	1,166,000
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	260,000	806,000	-	1,066,000
天理大学	国際学部	地域文化学科	150,000	660,000	200,000	1,010,000

*各大学のホームページ、入学試験要項等を参照し本学が作成した

◆ 大谷リレーションシップ奨学金

開学以来、50年の歩みの中で本学を巣立った学生や、真宗大谷派寺院の寺族・門徒の皆様を支えられ、九州大谷短期大学は2020年度に開学50周年を迎えます。

人と人のつながりを大切に、新たな出遇いを通して、本学と本学に関わる人の発展を願って新しい奨学金制度を設けました。

次のいずれかに該当する方は、入学者選抜試験合格後に手続きを行うと入学金が免除になります。



入学金 免除 ¥0

手続き

- 入学者選抜試験に合格後、入学金免除申請書を入学手続期限内に提出してください。詳細は学生募集要項を参照ください。
- 入学金免除申請書には、①の場合は真宗大谷派寺院住職の押印、②の場合は同窓生の卒業証明書及び3親等以内の親族を証明する書類、③の場合は在学生の在学証明書及び3親等以内の親族を証明する書類のいずれかが必要になります。 ※この制度でいう「真宗大谷派寺院」とは、宗教法人「真宗大谷派」を包括団体とする寺院です。

入学金・納付金

●入学金 200,000円

※金額は2019年度入学生の実績です。

●学費

	前期	後期	備考
授業料	320,000円	320,000円	前期の授業料と施設設備費は入学手続期限内に納入していただきます。
施設設備費	125,000円	125,000円	
冷暖房費	4,000円	3,000円	
計	449,000円	448,000円	

●課程履修費等

	前期	後期	備考
仏教学科	27,000円	73,000円	学科ごとに金額と内容が異なる諸費用です。学科実習費、研修旅費、公演費用等が含まれます。
表現学科(演劇放送)	54,000円	34,000円	
表現学科(情報司書)	52,000円	24,000円	
幼児教育学科	26,600円	25,500円	
福祉学科	20,500円	17,700円	

●委託徴収金

	前期	後期	備考
諸会費	45,000円	25,000円	学生自治会費、学生会費、後援会費等

※上記のほか、教科書・教材購入費が別途必要です。

◆ スカラシップ・チャレンジ

九州大谷短期大学は、向学心に富み優れた資質を持ちながら、経済的な事情で学業を継続することが困難な学生を支援します。

①入学金免除 自己推薦型選抜における成績上位者の中から、入学金免除となる学生を選抜する制度です。

自己推薦型選抜合格 → 学科・フィールド別に設ける一定基準以上の成績上位者 → **入学金 免除 ¥0**

奨学金の給付額及び採用人数

	入学金20万円
仏教学科	2名以内
表現学科演劇放送フィールド	5名以内
表現学科情報司書フィールド	2名以内
幼児教育学科	7名以内
福祉学科	2名以内

- ◎応募方法 / 自己推薦型選抜への志願を応募とみなします
- ◎選抜方法 / 自己推薦型選抜における、学科・フィールド別に設ける一定基準以上の成績上位者
- ◎採用後の手続き / 入学金免除申請書に家計基準に該当している証明書を添付し提出※1

②授業料免除 自己推薦型選抜、学校推薦選抜での合格者(入学手続完了者)および一般選抜1期受験者の中から、授業料免除となる学生を選抜する制度です。

[10/25] 自己推薦型選抜 または [11/15] 学校推薦選抜に合格 → 合格後 スカラシップ・チャレンジにエントリー (POINT 1 エントリー無料) → [2/5] 一般選抜 スカラシップ・チャレンジ → **授業料 50%免除** (両方あわせて約6.5人に1人が対象) または **授業料 30%免除** (POINT 2 奨学生として選抜されない場合でも、合格の権利はもちろんそのまま)

奨学金の給付額及び採用人数

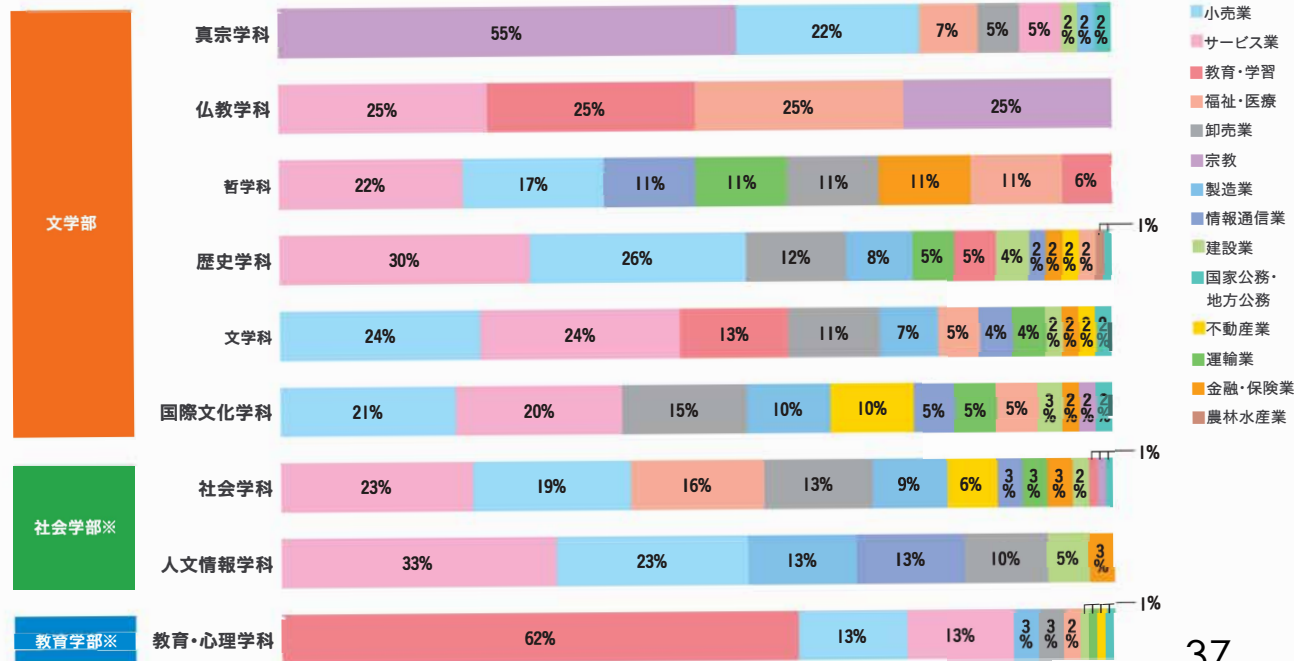
	授業料 50%	授業料 30%
仏教学科	1名以内	1名以内
表現学科演劇放送フィールド	2名以内	6名以内
表現学科情報司書フィールド	1名以内	1名以内
幼児教育学科	5名以内	10名以内
福祉学科	1名以内	2名以内

- ◎応募方法及び期間 / 自己推薦型選抜又は学校推薦選抜に合格後、スカラシップ・チャレンジエントリーシートを一般選抜の出願締め切り日までに提出 ※一般選抜1期の受験者は、スカラシップ・チャレンジに応募したものとみなします。
- ◎選抜方法 / 一般選抜と同じ教科・科目にて実施します(面接・書類審査を除く)
- ◎採用後の手続き / 授業料免除申請書に家計基準に該当している証明書を添付し提出※1
- ◎採用は1年間です。1年次の後期授業料納付時に免除します。2年次では改めて、1年次の成績状況等から選抜が行われます。

※コミュニケーション型選抜の合格者及び社会人選抜の受験者は対象外となります。

※1 採用にあたっては、家計基準の上限(給与所得者は841万円以下、給与所得者以外355万円以下)があります。「家計基準」の金額とは、学生本人の父母又はこれに代わって家計を支えている者(主たる家計支持者1人)の収入金額をいい、「給与所得者」にあつては減免対象者を判断する直近の源泉徴収票の支払金額とし、「給与所得者以外」にあつては確定申告書の所得金額とする。

業種別就職状況 (2018年度)



※社会学部については2018年度文学部社会学科および人文情報学科の状況、教育学部については2018年度文学部教育・心理学科の状況を記載しています。

業種別求人件数の推移

年度	農業・林業	建設業・ 不動産業	製造業	電気・ガス 水道業	情報 通信業	運輸業
平成27年度 (2015)	12	569	873	33	2,293	211
平成28年度 (2016)	37	1,114	1,454	12	1,529	344
平成29年度 (2017)	31	1,134	1,554	16	1,545	345
平成30年度 (2018)	34	1,270	1,730	20	1,664	410

卸売業	小売業	金融・ 保険業	サービス業	教育・学習	医療・ 社会福祉	国家公務員 地方公務員	合計	増加率
908	622	243	1,216	490	1,219	456	9,145	-
1,392	1,379	220	1,778	555	2,103	85	12,002	1.31
1,436	1,371	191	1,831	671	2,277	105	12,507	1.04
1,598	1,419	199	1,849	709	2,522	95	13,519	1.08

学科別就職状況

年度	区分	真宗	仏教	哲	社会	歴史	文学	国際文化	人文情報	教育・心理	全体
平成27年度 (2015)	卒業者	67	36	46	98	109	61	72	78	102	669
	就職希望者	42	23	31	83	76	43	55	62	95	510
	就職者	42	22	30	81	68	41	53	62	95	494
	内定率	100.0%	95.7%	96.8%	97.6%	89.5%	95.3%	96.4%	100.0%	100.0%	96.9%
	進路決定率	85.1%	75.0%	71.7%	87.8%	67.9%	67.2%	77.8%	79.5%	93.1%	79.4%
平成28年度 (2016)	卒業者	55	20	44	123	112	74	94	68	96	686
	就職希望者	37	14	24	108	81	58	75	57	84	538
	就職者	36	14	21	105	75	54	71	51	84	511
	内定率	97.3%	100.0%	87.5%	97.2%	92.6%	93.1%	94.7%	89.5%	100.0%	95.0%
	進路決定率	85.5%	100.0%	56.8%	87.8%	73.2%	75.7%	76.6%	75.0%	88.5%	79.6%
平成29年度 (2017)	卒業者	65	18	32	110	97	78	73	77	103	653
	就職希望者	47	15	21	99	77	55	63	60	90	527
	就職者	47	15	20	98	76	53	60	51	90	510
	内定率	100.0%	100.0%	95.2%	99.0%	98.7%	96.4%	95.2%	85.0%	100.0%	96.8%
	進路決定率	98.5%	94.4%	71.9%	90.9%	80.4%	69.2%	84.9%	68.8%	89.3%	83.2%
平成30年度 (2018)	卒業者	60	13	26	103	100	72	78	47	103	602
	就職希望者	42	4	20	97	84	57	61	42	91	498
	就職者	42	4	18	96	82	54	60	39	90	485
	内定率	100.0%	100.0%	90.0%	99.0%	97.6%	94.7%	98.4%	92.9%	98.9%	97.4%
	進路決定率	95.0%	69.2%	73.1%	94.2%	85.0%	76.4%	79.5%	83.0%	91.3%	85.9%

大谷大学「国際学部 国際文化学科（仮称）」
設置構想についての人材需要アンケート調査
結果

令和 2 年 2 月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1	調査の概要	1
2	全質問項目の集計結果	2
3	集計結果のポイント	9

添付資料

「大谷大学 国際学部 国際文化学科（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査」用紙

1 調査の概要

◆調査の目的：本調査は、大谷大学が令和3年4月設置に向けて構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」の卒業生の就職におけるニーズを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆調査期間：令和元年12月～令和2年1月

◆調査対象：令和3年4月に設置構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」の卒業生の採用が期待できる企業・機関・団体として、これまでの大谷大学の採用実績のある1,096件を対象とした。地域別の送付件数は以下の通り。

地域	送付件数	構成比
北海道・東北	9件	0.8%
関東	248件	22.6%
中部(甲信越・北陸・東海)	73件	6.7%
近畿	713件	65.1%
中国・四国	31件	2.8%
九州・沖縄	22件	2.0%
合計	1,096件	100.0%

◆調査方法：調査対象とした1,096件の採用担当者宛てに、大谷大学が構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」の概要とアンケート用紙を送付。回答後、返信を求めた。

◆調査内容：アンケート項目は全7問で、6問が選択肢式、1問を記述式とした。主な質問内容は、以下の通りである。

『企業・機関・団体の基本情報』

『企業・機関・団体が新卒者を採用する際に求める能力について』

『大谷大学「国際学部 国際文化学科（仮称）」の卒業生の採用見込みについて』

◆回収件数：221件（配布件数 1,096件 / 回収率 20.2%）

2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

2～8 ページは、アンケートで回答を得た 221 件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1 貴社・貴機関・貴団体の主業種をお答えください。最もあてはまるもの一つにマークをお願いします。

選択項目	回答数	構成比
農業、林業、漁業、鉱業	1	0.5%
建設業	6	2.7%
製造業	3	1.4%
電気、ガス、熱供給、水道業	0	0.0%
通信業	5	2.3%
放送業、情報サービス業	6	2.7%
インターネット付随サービス業	1	0.5%
映像・音声・文字情報制作業	1	0.5%
運輸業、郵便業	13	5.9%
卸売業	25	11.3%
小売業	42	19.0%
金融業・保険業	6	2.7%
不動産業、物品賃貸業	5	2.3%
学術研究、専門・技術サービス業	1	0.5%
宿泊業、飲食サービス業	36	16.3%
生活関連サービス業、娯楽業	5	2.3%
教育、学習支援業	5	2.3%
医療、福祉	31	14.0%
複合サービス事業	5	2.3%
その他のサービス	11	5.0%
公務	2	0.9%
その他	9	4.1%
無回答	2	0.9%
計	221	100.0%

問2 貴社・貴機関・貴団体の所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。あてはまるもの一つにマークをお願いします。

※ 回答のあった選択肢のみ掲載

選択項目	回答数	構成比
北海道	2	0.9%
山形県	1	0.5%
埼玉県	1	0.5%
千葉県	2	0.9%
東京都	28	12.7%
神奈川県	1	0.5%
新潟県	1	0.5%
富山県	4	1.8%
石川県	4	1.8%
福井県	1	0.5%
長野県	1	0.5%
岐阜県	1	0.5%
静岡県	1	0.5%
愛知県	3	1.4%
三重県	4	1.8%
滋賀県	22	10.0%
京都府	76	34.4%
大阪府	44	19.9%
兵庫県	9	4.1%
奈良県	4	1.8%
和歌山県	1	0.5%
島根県	1	0.5%
岡山県	1	0.5%
愛媛県	1	0.5%
福岡県	2	0.9%
熊本県	1	0.5%
鹿児島県	2	0.9%
沖縄県	1	0.5%
海外	1	0.5%
計	221	100.0%

問3 貴社・貴機関・貴団体の従業員・職員数をお答えください。あてはまるもの一つにマークをお願いします。

選択項目	回答数	構成比
～99 人	45	20.4%
100～299 人	63	28.5%
300～499 人	26	11.8%
500～999 人	38	17.2%
1,000～2,999 人	26	11.8%
3,000～9,999 人	20	9.0%
10,000 人～	3	1.4%
計	221	100.0%

問4 新卒者を採用する際に、求める能力をお答えください。あてはまるものすべてにマークをお願いします。

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答した 221 件のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
コミュニケーション能力	208	94.1%
語学力	21	9.5%
読解力・文章力	44	19.9%
理解力	116	52.5%
論理力	34	15.4%
考え抜く力	94	42.5%
目的達成志向	116	52.5%
適応力	166	75.1%
忍耐力	114	51.6%
ボランティア経験	2	0.9%
インターンシップ経験	2	0.9%
他者と協働して行動できる力	175	79.2%
専攻学問の専門的な知識	5	2.3%
無回答	1	0.5%

問5 大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。あてはまるものにマークをお願いします。

選択項目	回答数	構成比
ニーズは極めて高い	46	20.8%
ニーズはある程度高い	140	63.3%
ニーズはあまりない	8	3.6%
ニーズは全くない	0	0.0%
わからない	24	10.9%
無回答	3	1.4%
計	221	100.0%

問6 大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関・貴団体で採用したいと思われますか。あてはまるものにマークをお願いします。

選択項目	回答数	構成比
採用したい	121	54.8%
採用しない	4	1.8%
わからない	91	41.2%
無回答	5	2.3%
計	221	100.0%

以下は問6で「採用したい」と回答した 121 件へ回答を求めた。

現時点で、採用可能と思われる人数をお答えください。

※ 記入のあった数値への回答数を集計した。

選択項目	回答数	構成比
1 人	22	18.2%
2 人	34	28.1%
3 人	19	15.7%
5 人	16	13.2%
6 人	1	0.8%
7 人	1	0.8%
10 人	8	6.6%
20 人	3	2.5%
無回答	17	14.0%
計	121	100.0%

問7 大谷大学が設置構想中の新学部・学科について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※ 43件から回答を得た。以下は問1の業種順に並べた。

自由回答／【所在地／業種／規模】
理系学生が欲しい。建築学部-施工管理・設計士、理学・数学-数学に強い、営業・経理適性が高い等【京都府 / 建設業 / ～99人】
現在、先輩社員も活躍いただいております。国際学部で広い視野、柔軟な考え方、グローバル化に対応できる力のある方とぜひ今後共に成長していきたいと思っております。今後もぜひお力添えのほど、宜しく願いいたします。【大阪府 / 製造業 / 300～499人】
「海外」というキーワード、強みだけでは今後不足してくると思うので、「海外経験x〇〇」という2分野にまたがったスキルを身に付けられると、人としての付加価値が高まると思います。【京都府 / 製造業 / 500～999人】
ゆとり世代・さとり世代で問題になっている問4の教育をおこなっていただけると、素晴らしい子たちが世の中の役に立ってくれるのではないのでしょうか？【京都府 / 通信業 / 100～299人】
当社の通信事業部では、外国語を話せるスタッフがいない為、外国のお客様の対応で苦慮しています。米軍関係で施設が次々と出来ているので、今後は語学力がある方を採用したいと考えておりましたので、貴校が考えておられる学科に期待します。【京都府 / 通信業 / 100～299人】
貴校の多くのご卒業生の方々と同じく、明るく・元気で・素直な人材を社会に送り出して頂きたいです。ぜひ弊社でもご活躍いただきたいと考えております。【兵庫県 / 通信業 / 500～999人】
漠然とした物事、人よりもより子細に込み入っていくことが求められ、それが共同体をなす社会であるべき、と考えています。どこにでもある、どこにでもある、では済まない時代ではないかと。【京都府 / 放送業、情報サービス業 / 100～299人】
グローバルで視野の広い人材を育てて頂ければと思います。校内で企業説明会等ありましたら、ぜひお声がけください。【大阪府 / 放送業、情報サービス業 / ～99人】
グローバルな視野を持ち、社会で活躍したいという意欲がある人材を育てていただきたいです。【東京都 / 運輸業、郵便業 / 500～999人】
大谷大学＝仏教のイメージが強いのので、こういった学部がある方が幅が広がっていいと思います。【大阪府 / 卸売業 / ～99人】
国際学部 国際文化学科の開設を心待ちにしております。是非採用させて頂きたいと思っております。今後とも、よろしく願い致します。【大阪府 / 卸売業 / 500～999人】
コミュニケーション能力及び行動力の高い学生への教育を期待しています。【京都府 / 卸売業 / 1,000～2,999人】
現在の社会において、「外国語が話せる」「留学経験がある」という学生は少ないと思われます。貴校では、それ以上の専門知識や国際交流経験を活かしたバイタリティのある若者を育てて頂きたいと思っております。【京都府 / 卸売業 / 100～299人】
学部・学科にとらわれず、幅広く採用につなげていきたい。よろしく願いいたします。【三重県 / 卸売業 / 500～999人】
国際文化に携わる事で、コミュニケーション力を身に付けた学生様にぜひお越しいただきたいです。【滋賀県 / 小売業 / 300～499人】
今後、技術革新などで新たな商品が生まれ出されたり、また、商売のやり方も、大きく変わってくると考えられます。そのような変革にも、対応できるような、多様な考えを受け入れられる人物を育てていただきたいと思っております。【京都府 / 小売業 / 500～999人】

<p>スーパーという業職はコミュニケーション能力がとて大切になります。また、外国人実習生の受け入れも行っておりますので、多様性のある学生様に当社を希望していただきたく思います。【大阪府 / 小売業 / 1,000~2,999人】</p>
<p>今後さらに国際力や語学力が必要になってくると考えますので、貴学の学生のさらなるご活躍を期待いたします。また、当社ではあまり国際的な事に関しては活躍の場は少ないですが、当社でも活躍していただけたらありがたいです。【京都府 / 小売業 / 100~299人】</p>
<p>これからますます世界との距離が近くなると思いますので、新学部・学科の設置は素晴らしい事だと思います。今後とも何卒よろしく願いいたします。【大阪府 / 小売業 / ~99人】</p>
<p>国際社会において、大谷大学だから出来ることを主張できる人材の育成を期待します。【石川県 / 小売業 / 500~999人】</p>
<p>国際的な多様性を学ぶことで、語学力ばかりではなく、多文化理解、コミュニケーション力を身に付けていただく事を期待しています。【東京都 / 小売業 / 1,000~2,999人】</p>
<p>外国語だったり、そのコミュニケーション能力は弊社で必要というわけではありませんが、そういうケースに立ち会った場合には武器になると思います。日本人同士でもコミュニケーション能力の少ない若者が増えていますので、そういう面では期待できるのではないかと思います。【滋賀県 / 小売業 / ~99人】</p>
<p>他文化や他言語に興味をもち、たくさんの刺激を受けた人物を求めています。自動車営業として、お客様に興味をもち、たくさんとコミュニケーションをとるということは、末永いおつきあいをしカーライフをトータルでサポートする上で必要不可欠であるためです。そのような人材の輩出をお待ちしております。【埼玉県 / 小売業 / 100~299人】</p>
<p>グローバルな時代に入り、コミュニケーション能力の高い人材の育成を望みます。【滋賀県 / 金融業・保険業 / 300~499人】</p>
<p>自分の考えを伝える力の向上【京都府 / 不動産業、物品賃貸業 / 100~299人】</p>
<p>社会に出たときに通用する人材に育ってもらう事が、私たち、大人の役割かと思ひ接しています。考える力、つながる力、アイデアを形にする力を付けさせてあげて欲しいです。【京都府 / 宿泊業、飲食サービス業 / 100~299人】</p>
<p>積極的な方・調和が取れる方。学力が高いことよりも、より大切な人格を大谷大学の国際学部で養ってほしいと思います。【京都府 / 宿泊業、飲食サービス業 / ~99人】</p>
<p>これからインバウンドを期待する時代となり、国際学部で学ばれる内容はどの業界でも活かされるかと思ひます。【京都府 / 宿泊業、飲食サービス業 / 3,000~9,999人】</p>
<p>外国語を使用してのコミュニケーションが出来、多文化社会への理解を持ち、お客様へのサービスが提供できる人材は今後必要だと感じます。【滋賀県 / 宿泊業、飲食サービス業 / 100~299人】</p>
<p>グローバルな人材となるための基礎力が少しでも多く身についた卒業生を採用できればありがたいです。【京都府 / 宿泊業、飲食サービス業 / 500~999人】</p>
<p>様々な言語での会話能力が必要な時代かと思ひます(どの業種でも)。ぜひ貴学の学生様とご縁を頂ければ幸いです。今後とも宜しく願い致します。【東京都 / 宿泊業、飲食サービス業 / 1,000~2,999人】</p>
<p>当所は新規4月採用という形をとっていないので(ほぼ中途採用)貴大学生の採用について積極的に意見できるものはないですが、採用を担当しているものとして感じることは、四大を卒業して就職しても結局短期間で辞めている人が多く、最近の若者に対しては忍耐力がない者が多いと思うことが多いです。【京都府 / 教育、学習支援業 / ~99人】</p>
<p>福祉現場も様々な人材でチームを作ってケアをしています。外国人の方も増えてくると思ひます。学んだことをチーム形成等に活かして、中心人物として活躍される学生さんが増えることに期待していま</p>

す。【 京都府 / 医療、福祉 / 1,000~2,999 人 】
介護業界はこれから東南アジアの方々と一緒に仕事をしたいといけません。是非とも、語学力を備えた人材育成をお願いできればと考えております。【 京都府 / 医療、福祉 / 300~499 人 】
様々な視点から物事をとらえることのできる人材、他者の存在に気づき、共生のために幅広く活躍できる人材は、今後も社会から求められていくと考えています。【 千葉県 / 医療、福祉 / 1,000~2,999 人 】
福祉の現場でも人種の多様化があります。当法人は高齢者(介護)ですが、外国の方々も増加してくると思ってます。語学力に強い職員も採用していきたいとは思いますが…。どのような職種で入社？と考えてしまうところがあります。【 長野県 / 医療、福祉 / 100~299 人 】
グローバル化に行く時代に対応できる力を持つ若い人に期待。【 京都府 / 医療、福祉 / 500~999 人 】
・大谷保育加入している法人に、大谷大卒の学生さんの就職率を上げていただきたいです。 ・教諭免許では、児童養護施設で、児童指導員として働くことができます。できれば、社会的養護の理解や授業の中に入れていただきたいです。【 兵庫県 / 医療、福祉 / ~99 人 】
当法人でも技能実習生の受け入れが始まり、今後、さらなるグローバル化が進むと予想されます。新学部設立は、これからの国際社会で活躍できる人材の育成につながるのではないかと期待します。【 京都府 / 医療、福祉 / 100~299 人 】
自分のためだけでなく、社会に役立つ働きができる人材を育成されますよう、お祈りいたします。【 滋賀県 / 医療、福祉 / 100~299 人 】
建設業界は多様な人々によって成り立っている業界なので、外国人も含めて多様性に対する理解の深い学生が増えていくことを期待しております。今後ともよろしく願いいたします。【 東京都 / その他のサービス / 1,000~2,999 人 】
語学力はもとより、専門的な資格を在学中に取得できるカリキュラムを整えてほしい。入社後即、戦力となる人材を期待します。【 東京都 / その他のサービス / 100~299 人 】
今後必要となる力を身につけられる学部だと思います。ぜひ、将来に向けてのキャリアを考えていく力のある学生を多く輩出していただき、私たちの会社にもいらしていただけると幸いです。【 東京都 / 無回答 / 100~299 人 】

3 集計結果のポイント

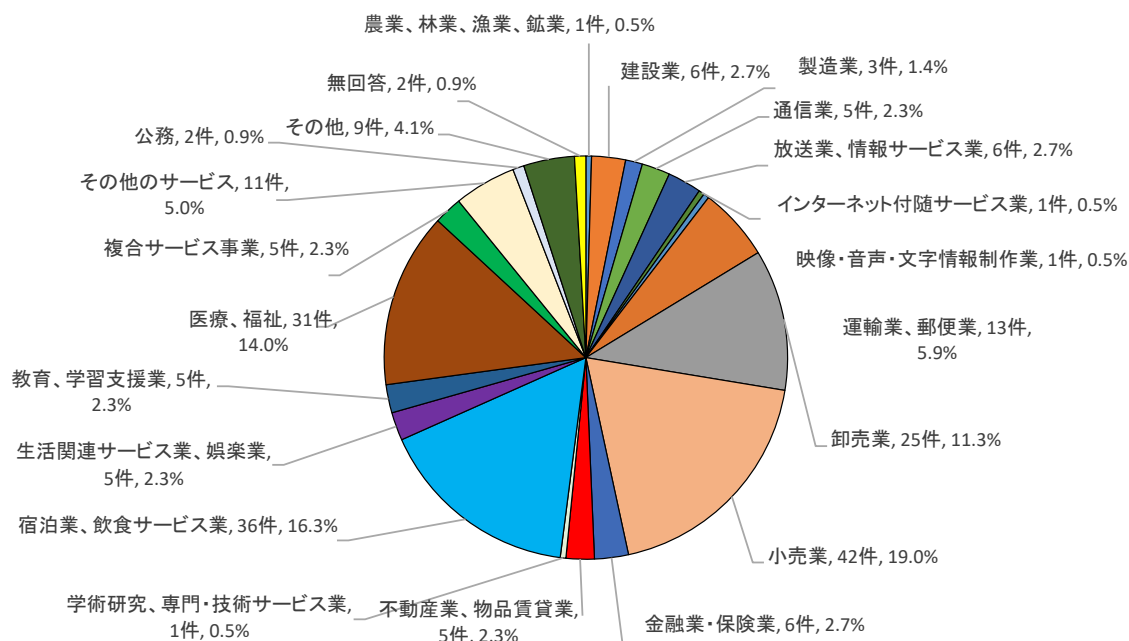
※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

- 回答者のうち、「小売業」、「宿泊業・飲食サービス業」がそれぞれ全体の 2 割で構成。

人材需要アンケートで回答を得た 221 件の業種として、「小売業」42 件 (19.0%) と「宿泊業・飲食サービス業」36 件 (16.3%) への回答が目立ち、それぞれ、全体の約 2 割を占める構成となっている。続いて「医療・福祉」31 件 (14.0%)、「卸売業」25 件 (11.3%) が多く、それぞれ全体の約 1 割を占めている。

なお、選択肢 22 項目のうち、「電気、ガス、熱供給、水道業」を除く 21 項目に回答があり、様々な業種より回答が得られた。

グラフ 回答元の業種 (「問1」結果より)



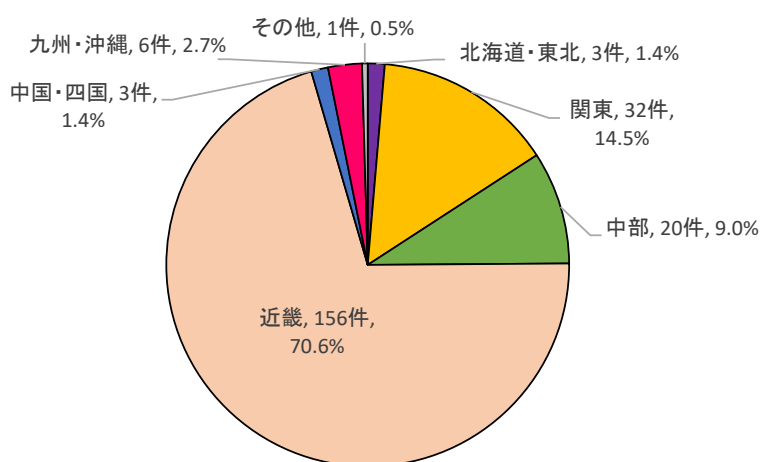
● 回答者の7割が近畿圏に所在する企業・機関・団体。

回答を得た221件の所在地として、「京都府」(76件、34.4%)、「大阪府」(44件、19.9%)、「東京都」(28件、12.7%)の順番で回答が多かった。なお、選択肢とした47都道府県と海外を地方別に7つに分けてグラフ化したところ、70.6%にあたる156件が近畿圏であり、大谷大学の周辺地域に所在している企業・機関・団体からの回答が多くなっている。

表とグラフ 回答元の所在地 (「問2」結果より)

※ 上位5項目のみ抽出

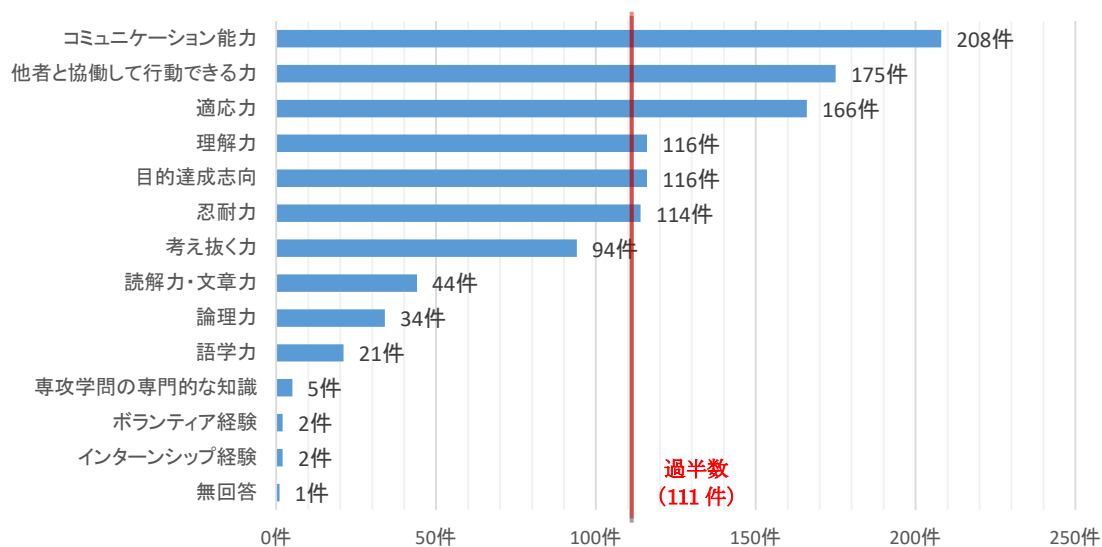
選択項目	回答数	構成比
京都府	76	34.4%
大阪府	44	19.9%
東京都	28	12.7%
滋賀県	22	10.0%
兵庫県	9	4.1%



● 新卒者の採用時、9割以上が「コミュニケーション能力」を求める。

新卒者を採用する際に求める能力を複数選択で質問したところ、「コミュニケーション能力」への回答がもっとも多く、94.1%にあたる208件が回答した。続いて「他者と協働して行動できる力」(175件、79.2%)、「適応力」(166件、75.1%)、「理解力」(116件、52.5%)、「目的達成志向」(116件、52.5%)、「忍耐力」(114件、51.6%)にそれぞれ半数が回答しており、複数の能力を求めている傾向がみられた。

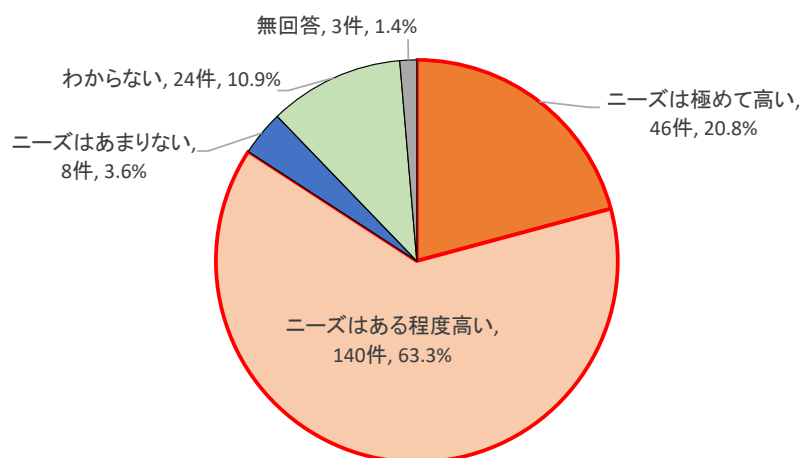
グラフ 新卒者採用時に求める能力（「問4」結果より）※複数回答の結果、回答数が多い順



● 8割以上が、「国際学部国際文化学科（仮称）」について、社会ニーズが高いと回答。

大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」が養成する人材への今後の社会におけるニーズについて、46件（20.8%）が「ニーズは極めて高い」、140件（63.3%）が「ニーズはある程度高い」と回答し、合計で84.2%にあたる186件より、社会的なニーズの高さを示す回答を得られた。なお、「ニーズは全くない」への回答は0件という結果であった。

グラフ 「国際学部 国際文化学科（仮称）」が養成する人材への今後の社会ニーズ（「問5」結果より）



● 「国際文化学科」が養成する人材に121件が採用意欲を示し、採用可能人数の合計が380人。

大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」が養成する人材について、54.8%にあたる121件が「採用したい」と回答し、本アンケート回答者の半数が採用意欲を示した。なお、「採用しない」への回答は4件（1.8%）に留まる一方で、「わからない」には91件（41.2%）が回答した。

「採用したい」への回答を業種別（問1の回答）でみたところ、回答のあった22業種のうち、14業種が「採用したい」と回答していることから、「国際学部 国際文化学科（仮称）」が養成する人材は、幅広い業種から需要があると考えられる。

なお、「採用したい」と回答した121件には、採用可能と思われる人数の記入を求めており、104件が人数を記入した。この記入のあった人数の合計は380人であり、大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科（仮称）」が予定する入学定員100人を上回る結果であった。

グラフ 「国際学部 国際文化学科（仮称）」が養成する人材への採用意欲（「問6」結果より）

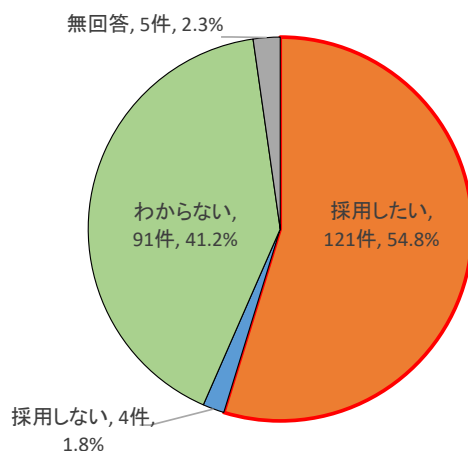


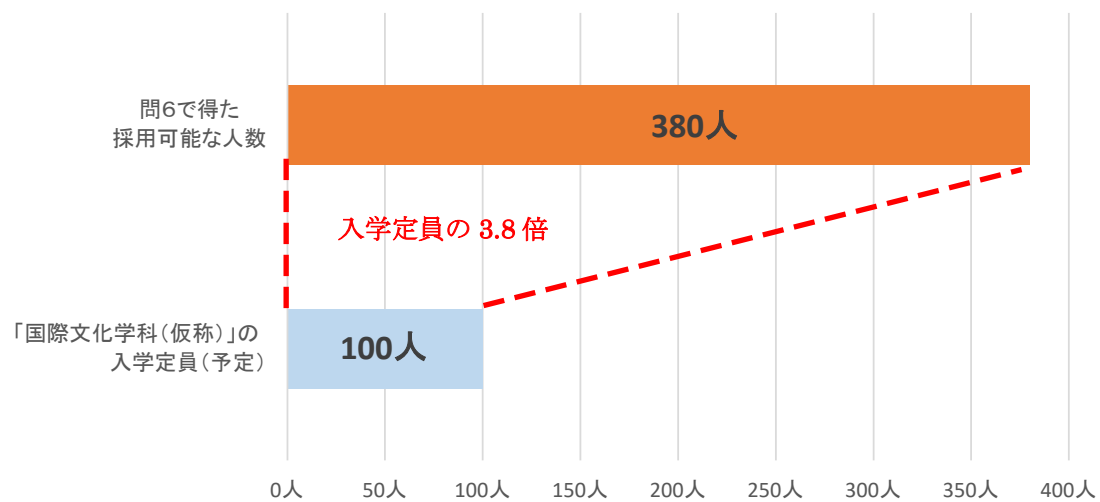
表 【業種別】「国際学部国際文化学科（仮称）」が養成する人材への採用意欲（「問1」「問6」結果より）

選択項目	問6で「採用したい」と回答	【参考】全回答数
農業、林業、漁業、鉱業	0件	1件
建設業	2件	6件
製造業	2件	3件
電気、ガス、熱供給、水道業	0件	0件
通信業	2件	5件

放送業、情報サービス業	3件	6件
インターネット付随サービス業	0件	1件
映像・音声・文字情報制作業	0件	1件
運輸業、郵便業	7件	13件
卸売業	14件	25件
小売業	29件	42件
金融業・保険業	0件	6件
不動産業、物品賃貸業	3件	5件
学術研究、専門・技術サービス業	0件	1件
宿泊業、飲食サービス業	26件	36件
生活関連サービス業、娯楽業	3件	5件
教育、学習支援業	2件	5件
医療、福祉	16件	31件
複合サービス事業	3件	5件
その他のサービス	8件	11件
公務	0件	2件
その他	0件	9件
無回答	1件	2件
計	121件	221件

表とグラフ 「国際学部国際文化学科（仮称）」が養成する人材の採用可能人数（「問6」結果より）

採用可能人数(A)	採用したい	
	回答数(B)	合計人数(A×B)
1人	22件	22人
2人	34件	68人
3人	19件	57人
5人	16件	80人
6人	1件	6人
7人	1件	7人
10人	8件	80人
20人	3件	60人
無回答	17件	0人
計	121件	380人



以上の結果より、大谷大学が令和3年4月に設置構想中である「国際学部 国際文化学科(仮称)」の人材需要の見通しは、予定する入学定員を上回る採用意欲を得たことから、十分な需要があり、問題ないと判断できる。

添付資料

「大谷大学 国際学部 国際文化学科（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査」
用紙



大谷大学 国際学部 国際文化学科

（仮称）
設置構想中

設置構想についての人材需要アンケート調査

（対象：人事・採用ご担当者様）

大谷大学(京都市北区小山上総町)は、文学部国際文化学科を発展的に改組し、2021年4月に「国際学部 国際文化学科(仮称)」を設置することを構想しています。

つきましては、国際学部 国際文化学科について、将来新学部の卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。回答いただいた皆様から得られた情報は、大谷大学の新学部学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

アンケート調査へのご協力を、よろしくお願い申し上げます。

※このアンケート調査は大谷大学から委託された第三者機関(株式会社紀伊屋書店・株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

記入例を参考に回答ください。
正しい 誤り 正しい 誤り

問1 貴社・貴機関・貴団体の主業種をお答えください。

最もあてはまるもの一つにマークをお願いします。

- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 農業、林業、漁業、鉱業 | <input type="radio"/> 建設業 | <input type="radio"/> 製造業 |
| <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 通信業 | <input type="radio"/> 放送業、情報サービス業 |
| <input type="radio"/> インターネット付随サービス業 | <input type="radio"/> 映像・音声・文字情報制作業 | <input type="radio"/> 運輸業、郵便業 |
| <input type="radio"/> 卸売業 | <input type="radio"/> 小売業 | <input type="radio"/> 金融業・保険業 |
| <input type="radio"/> 不動産業、物品賃貸業 | <input type="radio"/> 学術研究、専門・技術サービス業 | <input type="radio"/> 宿泊業、飲食サービス業 |
| <input type="radio"/> 生活関連サービス業、娯楽業 | <input type="radio"/> 教育、学習支援業 | <input type="radio"/> 医療、福祉 |
| <input type="radio"/> 複合サービス事業 | <input type="radio"/> その他のサービス | <input type="radio"/> 公務 |
| <input type="radio"/> その他 | | |

問2 貴社・貴機関・貴団体の所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。

あてはまるもの一つにマークをお願いします。

- | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 福島県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 神奈川県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 長野県 | |
| <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 三重県 | | | |
| <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | |
| <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 山口県 | | |
| <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 高知県 | | | |
| <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 | <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 海外 | | | | | | <input type="radio"/> 沖縄県 |

問3 貴社・貴機関・貴団体の従業員・職員数をお答えください。

あてはまるもの一つにマークをお願いします。

- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> ~99人 | <input type="radio"/> 100~299人 | <input type="radio"/> 300~499人 | <input type="radio"/> 500~999人 |
| <input type="radio"/> 1,000~2,999人 | <input type="radio"/> 3,000~9,999人 | <input type="radio"/> 10,000人~ | |





問4以降は、大谷大学 新学部構想の概要（別紙リーフレット）をご覧ください。

【国際学部 国際文化学科(仮称)について】

問4 大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。あてはまるもの一つにマークをお願いします。

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない
 ニーズは全くない わからない

問5 大谷大学が設置構想中の「国際学部 国際文化学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関・貴団体に採用したいと思われませんか。あてはまるもの一つにマークをお願いします。

- 採用したい 採用しない わからない

「採用したい」とされた場合、よろしければ以下にお答えください。

・採用可能な人数をお答えください。 人

問6 大谷大学が設置構想中の新学部・学科について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。



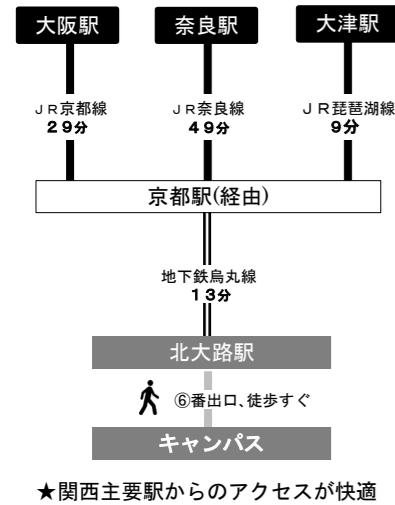
◆ 取得可能な免許・資格

中学校教諭一種【英語】、高等学校教諭一種【英語】、学校図書館司書教諭（教員免許状取得前提）、図書館司書、文書情報管理士2級、ファイリング・デザイナー検定3級、真宗大谷派教師、社会教育主事任用資格、社会福祉主事任用資格、博物館学芸員

◆ 卒業後の想定進路

観光業（旅行会社、ホテル・旅館業）、航空会社（CA、グラウンドスタッフ）、交通・運輸、外食・サービス、流通・小売、中・高教諭、国家・地方公務員、真宗大谷派宗務所 など

◆ アクセス



※いずれの場合にも乗り換え等必要な時間は含まれていません。

◆ 学費（他大学との比較）

大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設費・教育充実費等	初年次納付金合計
大谷大学	国際学部(仮称)	国際文化学科(仮称)	250,000	840,000	100,000	1,190,000
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科	270,000	858,000	108,000	1,236,000
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	200,000	806,000	70,000	1,076,000
大阪産業大学	国際学部	国際学科	250,000	792,000	52,000	1,094,000
大阪経済法科大学	国際学部	国際学科	200,000	996,000	-	1,196,000
神戸学院大学	グローバルコミュニケーション学部	グローバルコミュニケーション学科	300,000	810,000	210,000	1,320,000

- ◆ 他大学の学費は各大学のホームページの掲載情報です(2019年9月時点)。
- ◆ いずれも諸会費を含みません。また、実習等に伴う費用・経費が別途必要な場合があります。



国際学部 国際文化学科

(学部・学科名称はともに仮称・設置構想中)

2021年4月誕生



※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

この「概要」をご覧の上、
中にあるアンケート調査にご回答ください。

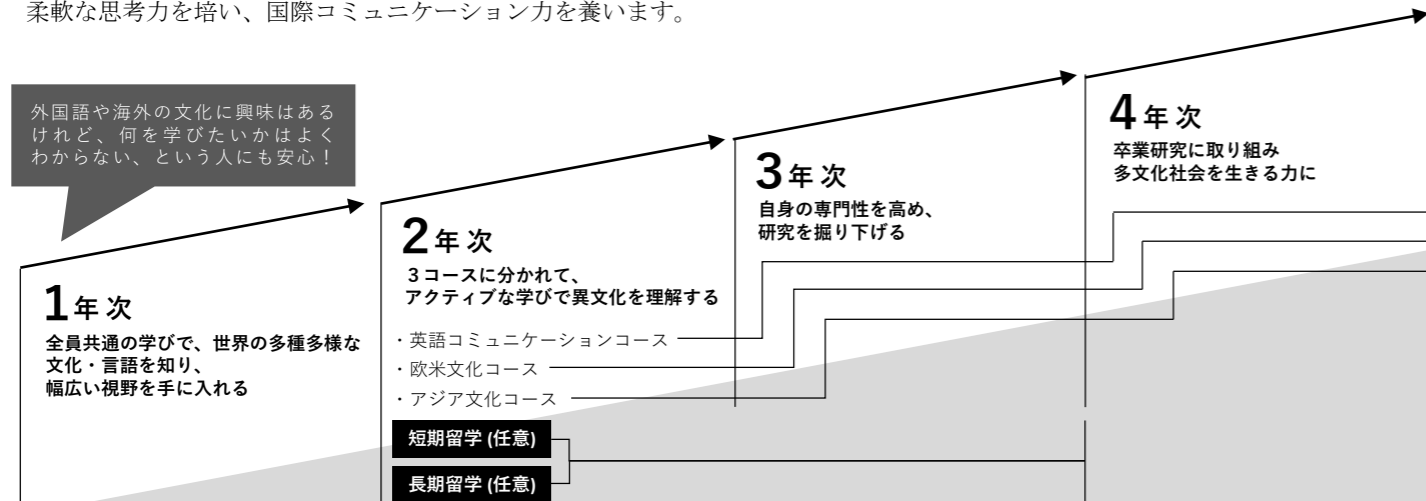
※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

◆ 養成する人物

グローバルな世界とローカルな地域社会を結びつける「グローバル」な視点に立ち、身近な他者の存在に気づき、多文化社会への深い理解と共生のために幅広く活躍できる人物を育成します。

◆ 学びの特色

異文化という鏡で自文化を見直しながら、多様な文化の豊かさを人生の豊かさにつなげる方法を探究します。英米、西欧、東アジアの文化や社会を深く理解し、欧米とアジアから日本を、日本からアジアと欧米を見る複眼的の学びを通して、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、国際コミュニケーション力を養います。



4年間で身につく「力」

- ・外国語を使用して「聞く」「読む」「話す」「書く」力を身につけ、十分なコミュニケーションができる。
- ・論理的な日本語力を身につけ、的確に議論できる。
- ・国際人として必要な、人間・社会・自然環境についての幅広い知識・知見が身につく。
- ・ものごとを多角的に考察し、多文化共生のための問題解決策を提案できる。
- ・文化的背景の異なる他者と自己への理解を深めながら、さまざまな課題を設定し、主体的に問題解決に取り組むことができる。

2年次から、興味・関心にあった専門コースを選択!

英語コミュニケーションコース

こんな人におすすめ

英語力の向上に特化したコースで英語を集中的に鍛えたい!

英語力強化カリキュラムを組み、英語集中プログラム、英語キャンプ、約1ヶ月の海外英語研修 (カナダを予定) ※を必修とします。英語を通じて世界各地の文化・社会について学ぶことにより、グローバルな思考力を養うと同時に、京都をフィールドとする実践型の学びも展開。キャリア教育との連携により、国際的な視野で社会貢献できる人物を育成します。

※研修費は別途必要です。

欧米文化コース

こんな人におすすめ

世界中に影響を与えているヨーロッパやアメリカの文化や社会・歴史を学びたい!

英米やフランス、ドイツに関する文献・資料の精読と分析を通して、グローバル化の本質を理解するとともに、国際コミュニケーション力の基盤となる論理的思考力と表現力を鍛えます。インターネットを活用した外国語での情報の収集、分析、発信などにも取り組みます。

アジア文化コース

こんな人におすすめ

中国、韓国・朝鮮の文化や歴史を学びたい!

中国文化と韓国・朝鮮文化は単に中国と朝鮮半島にとどまるものではありません。華人社会やコリアンタウンは日本を含む世界中に広がっており、ダイナミックな人の移動によっても文化は変容しています。アジアに学ぶことで、躍動する現代社会を生き抜くうえで必要な視角を養います。

※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

京都、国内で国際体験

学内国際体験

学内では、授業での国際体験はもちろん、授業外イベントなど、授業内外で留学生とコミュニケーションをとる機会が豊富にあります。



<Pick up! 授業>

実践文化演習 (語学集中)

ネイティブ教員による、初修外国語 (ドイツ語/フランス語/中国語/韓国・朝鮮語) の集中クラスです。コミュニケーション能力を高め、日常会話や意見交換ができるようになることを目指します。授業の最後には外国語交流会で、習った言語を実際に使用して力を確かめます。留学のための基礎固めにも活用できます。

<Pick up! 授業外イベント>

留学生とおしゃべりする「外国語カフェ」

外国語カフェは異文化交流や外国語会話を目的としたお茶会です。英語、ドイツ語、中国語などで留学生と交流できます。GLOBAL SQUAREアシスタントの学生がサポートする楽しいイベントです。

地域国際体験

学外では、京都を訪れている外国人や留学生と接するフィールドラーニングや、留学生との交流合宿など体験型の学びを実践します。



<Pick up! 授業>

English Workshopヴァージニア工科大学(アメリカ)との交流

アメリカのヴァージニア工科大学研修団との英語合宿を開催しました。これは、京都をフィールドに実践的に英語を学ぶ授業「ENGLISH WORKSHOP & CAMP」の一環として行われるもので、全15回のカリキュラムの締めくくりとなります。これまでの授業で培ってきた英語運用力を生かして、異文化理解を深めます。

<pick up! 授業 (フィールドラーニング) >

比較文化講義

「比較文化講義1・2」では、英語圏と非英語圏それぞれの国における英語の役割を理解することを目指し、留学生とのディスカッションや外国人へのアンケート調査に取り組みます。文化や歴史、言葉をテーマに、様々なバックグラウンドをもつ外国人とコミュニケーションをとることで、独自の視点を得て、異文化理解を深めてほしいと考えています。

GLOBAL SQUARE (語学学習支援室)

POINT 01 留学サポート

留学説明会や学術交流協定校の紹介など、個別相談を行います。有意義な留学のための事前オリエンテーションを実施したり、留学中の相談にも対応したりと、目的や状況にあわせてきめ細かくサポートします。

POINT 02 外国語学習サポート

さまざまな言語を対象とした外国語勉強会を開いています。アットホームな雰囲気、少人数制で、楽しく語学力アップがめざせます。「語学検定試験料補助制度」を設け、検定試験受験を支援しています。

POINT 03 留学生との交流

本学に留学中の外国人留学生が、アシスタントとして毎週決まった時間にGLOBAL SQUAREに在室しています。外国語カフェなどのイベントもここで開催しています。



海外で国際体験

短期語学・文化研修 (2~3週間)

事前学習後、夏または春の長期休暇に実施。語学研修と文化研修の2種類があります。

【語学力を高める】

カナダ・中国・台湾・韓国から選び、現地で生きた語学を学ぶ

【文化を理解する】

ヨーロッパ・インド・中国から選び、現地で文化を学ぶ



長期留学 (6ヶ月~1年間)

一定の要件を満たせば本学の在学期間として認められ、通常の修業年数で卒業でき、留学先の単位も認定されます。

【学術交流協定校 (27校)】

カナダ (2校)、アメリカ (3校)、イギリス (1校)、フランス (1校)、ドイツ (1校)、ハンガリー (1校)、オーストラリア (4校)、中国 (6校)、モンゴル (1校)、韓国 (4校)、台湾 (1校)、ベトナム (1校)、スリランカ (1校)

※ 設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。